

令和2年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

令和2年9月4日（金曜日）

議事日程第2号

令和2年9月4日（金曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤惣一郎君	2番	東野恭行君
3番	山本剛君	4番	吉川慶一君
5番	中村実君	6番	滝川正義君
7番	佐藤孝君	8番	新保峰孝君
9番	田原実君	10番	保坂悟君
11番	笠原幸江君	12番	斉木勇君
13番	高澤公君	15番	田中立一君
16番	古川昇君	17番	渡辺重雄君
18番	松尾徹郎君	19番	五十嵐健一郎君
20番	吉岡静夫君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹君 副市長 藤田 年明君

総務部長	五十嵐 久英君	市民部長	渡辺 成剛君
産業部長	見辺 太君	総務課長	渡辺 忍君
企画定住課長	渡辺 孝志君	財政課長	山口 和美君
能生事務所長	土田 昭一君	青海事務所長	猪股 和之君
市民課長	川合 三喜八君	環境生活課長	高野 一夫君
福祉事務所長	嶋田 猛君	健康増進課長	池田 隆君
商工観光課長	大嶋 利幸君	農林水産課長	猪又 悦朗君
建設課長	五十嵐 博文君	復興推進課長	斉藤 喜代志君
消防長	小林 正広君	教育長	井川 賢一君
教育次長	磯野 茂君	教育委員会こども課長	磯野 豊君
教育委員会こども教育課長	富永 浩文君	教育委員会生涯学習課長	穂 苺 真君
教育委員会文化振興課長		中央公民館長兼務	
市民会館長兼務	伊藤 章一郎君	市民図書館長兼務	

〈事務局出席職員〉

局長	松木 靖君	次長	松村 伸一君
係長	上野 一樹君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。
これより本日の会議を開きます。
欠席通告議員はありません。
定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員には、3番、山本 剛議員、11番、笠原幸江議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は14人ですが、議事の都合により、本日5人、7日5人、8日4人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分です。所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡明に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

通告書に基づき、以下の点を伺います。

質問1、新型コロナウイルス感染症対応地域医療フォーラムの成果と今後の地域医療体制について。

- (1) 8月23日に市が主催した地域医療フォーラム「新型コロナウイルスとの共生」、その目的と成果について伺います。
- (2) 糸魚川総合病院での新型コロナ感染症診療対応、感染症拡大防止策について伺います。
- (3) 介護老人保健施設「なでしこ」の事業終了と新型コロナウイルス感染症の関連について伺います。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応によって、行政、医療・福祉機関、市民の連携も見直していく必要があると思いますがいかがですか、伺います。

質問2、糸魚川市が推進する「売れる農業」について。

- (1) 糸魚川市農林水産課のホームページから引用しますと、糸魚川市の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化や担い手の不足など様々な課題を抱えており、早急な対応が求められている。糸魚川市は農業を取り巻く「人と農地の問題」を一体的に解決するため、地域と話し合いを進め「人・農地プラン」の実質化に取り組んでいる。地域農業の将来方針となる「人・農地プラン」の実質化について、アンケート結果を基に農業の将来の在り方について意見交換をするとともに、各種農業支援策などの情報提供を行う機会を計画した。とのことで「地域農業のこれからの考える会」を開催し、地域農業の将来について一緒に考えてみませんかと生産者や地域に投げかけをしましたが、糸魚川市に「売れる農業」を目的にしていく視点・論点があったのか、伺います。
- (2) 糸魚川市の質の高い特産品としては米がありますが、ナスや枝豆などもブランド化することが必要ではないでしょうか、伺います。
- (3) 「売れる農業」の実現に向けて、作り手から売手まで切れ目なくつながっていき、利益を

上げていくことが必要です。マーケティングやマネジメントをどのようにしていますか、伺います。

- (4) 糸魚川市と都市交流をしている長野県中野市では「中野市売れる農業推進室」として農業振興に積極的ですが、それに比べ糸魚川市の取組には戦略がないと感じます。中野市に学び、若い人が担い手となってくれるような明るい未来を感じる農業、「売れる農業」の実現を要望しますがいかがですか、伺います。
- (5) 持続可能な社会やSDGsの教育において、農業を地域社会の基盤として取り上げていくべきと考えますがいかがですか、伺います。

質問3、「えちご押しひすい海岸物語」、新駅周辺まちづくりについて。

- (1) 押上区に建設中の新駅の名称が「えちご押しひすい海岸」となりました。この駅名とした理由や目的、市民からの反応や感想、駅名にふさわしいセンスの良い駅舎デザインとすることについて、伺います。
- (2) 駅名に「えちご押し」と入ると、東京都墨田区の押上との違いが分かると同時につながりに役立ちます。押上、押上地名つながりで都市交流を進めていただきたいと以前から申し上げてきましたが、これまでとこれからの取組について伺います。
- (3) 駅名に「ひすい海岸」を入ると、ひすいが拾えるジオサイト前の駅であることが分かると同時に、富山県朝日町とのつながりで公共交通利用と観光に役立ちます。また国内有数のリゾート地HAKUBA VALLEYと連携し、きらりと光るすてきな観光ストーリー「えちご押しひすい海岸物語」をつくることでエリアのイメージを押し上げます。駅周辺に付加価値をつくることを目的とする取組について伺います。
- (4) 駅開業まで残り半年ですが、開業イベントはその後を見据えたものですか。駅周辺の観光飲食施設や商工団体と協議しながら準備を進めていますか、伺います。
- (5) 駅開業に併せて駅周辺まちづくり会社をつくり連携することで、柔軟な発想と先進的な取組が実行され、住民が望む地域振興に役立つと考えますがいかがですか、伺います。

質問4、若い人たちへの行政情報伝達などにアニメを生かすことについて。

- (1) 糸魚川市のホームページは誰に見ていただき、どのように活用されているか検証してありますか、伺います。
- (2) 若い世代への情報発信にアニメを活用すべきと思います。例として富山チューリップテレビなどの先進的な取組があり、参考にすべきと思います今回提案しますがいかがですか、伺います。
- (3) 以前新潟県が取り組んだ「宝石の国」というアニメとのコラボが思いのほか人を呼び、その後、久比岐自転車道のPRキャラクター久比岐 凜（くびき りん）がつけられるなど、アニメの活用は新しい情報発信として注目され、期待されています。そこで、6月定例会一般質問で現在押上区に建設中の駅舎や鉄道に高校生や若い人から愛着を持っていただくのにアニメを使うことを提案しました。その後私なりに調査したところ、アニメと地図情報を組み合わせた観光案内が研究されていることも分かりました。今後、アニメに詳しい市民や高校生を巻き込みながら、アニメを活用した新しい情報伝達に市で取り組むことを提案しますがいかがですか、伺います。

(4) 糸魚川市は0歳から18歳までの子ども一貫教育に取り組んでいますが、全体のイメージをつかみにくいものとなっていますので、アニメを活用するなどの工夫で分かりやすくしてはいかがでしょうか。また市内で人材が不足する職業、例えば看護師や土木現場などの仕事に興味を持ち、進学から就業へとつながるように、アニメを活用することを提案しますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ウイルスの特性や、今後我々が実践しなければならないことについて市民周知を図ることを目的で開催いたしました。当日は200名の参加者があり、新型コロナウイルスについて正しい理解を広められたものと捉えております。

2点目につきましては、新型コロナウイルス感染症の疑いのある患者に対しましては、待合室を分けるなど、院内の感染対策チームを中心に取組を進めております。

3点目につきましては、厚生連からは新型コロナウイルス感染症との関連性はないと伺っております。

4点目につきましては、地域包括ケアシステムを構成する関係者が、お互いに情報連携をさらに深めることが重要であると考えております。

2番目の1点目につきましては、今年度は、人・農地プランの推進・強化を目的として開催いたしましたところであります。

2点目につきましては、既に、越の丸茄子は全国に通用するブランドとして確立しておりますが、他の作物についても検証しながら検討してまいります。

3点目と4点目につきましては、JAや生産者の意向を確認しながら今後も関係機関と連携し、対応してまいります。

5点目につきましては、農業とSDGsの理念は食料の供給、あるいは環境の保全といった面で深く関わっており、関係機関とともに食の教育や農業体験などに取り組んでおります。

3番目の1点目につきましては、地元の愛着と全国に発信できるものとなるように決定されたものでございます。駅舎デザインも地区と協和した施設となるよう整備をしております。

2点目につきましては、これまで住民の皆様による交流が行われるものと確認しており、今後、交流の在り方について検討してまいります。

3点目につきましては、朝日町や白馬エリアとの公共交通を生かした連携を進めていく必要があると考えております。

4点目につきましては、開業後の利用促進や地域の活性化につながっていくよう地域のまちづくり活動と連携して進めており、駅周辺の飲食店等とも協議を進めてまいります。

5点目につきましては、新駅周辺の地域資源を活用し、官民連携で取組を進めていく必要がある

と思っております。

4番目の1点目につきましては、今年度、ホームページに関するアンケートを実施しており、主に観光やイベント情報、防災情報に多くの皆様方からご利用いただいております。

2点目と3点目につきましては、若い世代から行政情報に関心を持っていただくためにアニメを活用することは、情報発信の手法の1つだと考えております。

4点目につきましては、子ども一貫教育のブランドデザインやリーフレットなどでイラストを交えながら啓発に努めております。

キャリア教育の推進に当たっても学校や事業所と連携しながら、児童生徒にイメージを膨らませるように支援・工夫をしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、地域医療体制の2回目の質問です。

医療フォーラムの成果をもう少し詳しくご報告いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

当日は、一般参加者、それから関係スタッフ合わせて約200名の方からご参加いただいております。アンケート調査を実施したわけですが、その結果から、講師の方々が、自分を守る、病院を守る、地域を守る、そういう大切さを分かりやすい言葉でご講演いただいたことで、9割以上の方から改めて新型コロナウイルスのことが理解できた、または参考になったというような意見を頂いております。

このフォーラムによりまして、新型コロナウイルスへの理解は一層深まったものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、糸魚川総合病院でのコロナ感染症への対応について、もう少し詳しくご報告を頂きます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院からは、病院における取組、これを具体的な形でフォーラムでご報告いただいております。感染対策チームを立ち上げまして、このチームを中心に手指消毒、それからマスクの着用の徹底に加え、診察だとか手術の際は、フェイスシールド、N95のマスクの着用など、感染防止に努めておられます。

また、医療従事者の方々が、休憩室におきまして職員同士が密集しないような配置でありますとか、食事を取る場合でも会話はできるだけ行わないというような取組を行っておられます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。私も市民会館でお話を伺いました。その上で考えたことを質問します。糸魚川タイムスの記事に、会場に来た市民から大変ためになる内容だった。コロナの中で仕方ないが、聞く人が少ないのは残念。また機会があればとの感想が聞かれたとあります。

私も富山大学の山本先生の専門的でありながら分かりやすいご講演を多くの市民に伝えたいと思いました。この日、このとき会場に来られなかった市民、密な空間を避けている市民、また、市外の方、特に地域医療に従事することに関心のある若い人に糸魚川市の地域医療フォーラムをぜひ聞いてほしいと思いました。それほどすばらしい内容でした。

実は、密にならないほかの会場や自宅でフォーラムに参加したいという市民からのリクエストがあり、事前に担当課に伝えてはいましたが、どうなりましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

講師からご了解を頂きましたので、当日の様子についてはケーブルテレビで撮影しまして、後日、放送する予定にしております。また、参加を自粛された方に配慮しまして、映像についてはDVDに保存し、希望される方に貸出しをしていきたいというふうに考えております。

当初、ホームページで公開できないかという検討をしました。講師とも相談をしましたが、当日のスライドについては糸魚川市用に作成したもので、仮にホームページで公開した場合、市外の不特定多数の方が自由に視聴できるということから、市民を基本にDVDを貸し出す。そういう形にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

フォーラムのテーマが、新型コロナウイルスとの共生で、新しい生活様式への対応ですから、まずは主催者から意識を変える必要があると、こういうことだと思います。その点について、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

このフォーラムでは、検温、手指消毒をはじめ、座席の間隔の確保、講師と手話通訳の間のアクリル板の設置など、新しい生活様式を取り入れて実施させていただきました。今後、市内におきまして市やいろいろな団体でイベントなどが実施されますが、その際、主催者は新しい生活様式を十分意識し、それに則した対応を行った上で実施していただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回のフォーラムは、糸魚川市からの医療情報の出し方について考える機会となりました。例えば糸魚川総合病院の様々な取組は、糸魚川市のホームページからは分かりません。その辺り医療機関と連携して積極的に取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院におきましては、院内感染防止について大変厳格な取組を行っております。それも今回のフォーラムで紹介・報告いただいたところでもあります。このことを市民に周知するという事は、市の基幹病院への安心感だとか信頼感につながるというふうに考えられることでありますことから、病院と相談する中で、市民への周知・紹介などについても検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ぜひよろしく願いいたします。

加えて質問します。

行政、医療、福祉機関、市民の連携もコロナ対応へと見直していく必要があると思いませんか。フォーラムでは、地域包括ケアシステムについても触れていましたが、いかがですか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

おはようございます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、室内で過ごす時間が長くなり、活動量が低下するとと

もに人と接することが減少することが予想され、生活習慣病等の発症リスクが高まることが懸念されます。市民の方々に対しては、手洗いやマスクの着用、距離を取っての他者とのコミュニケーションなど、新しい生活様式の取組について普及啓発を図りながら、医療、介護、予防、生活支援などが一体的に提供されるよう関係機関と協力しまして新型コロナウイルス感染症に対応した地域包括ケアシステムを進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

このことにつきましては、8月7日の市民厚生常任委員会において介護施設の対応は医療機関との連携が課題となるが、市民部の中で各課にまたがることについては、総合調整しながら市民の安全・安心を確保してまいりたいと渡辺市民部長が答弁されています。その具体的な取組を渡辺部長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

具体的な取組ということでもありますけども、今日、一部マスコミで報道がありましたが、一昨日、福祉施設を対象に保健所の保健師がコロナ対策について研修をするという機会がありました。これは市の福祉事務所が主催し、保健所の窓口であります健康増進課と連携しながら開催したものであります。今後もこうした取組など、連携しながら市民の安全・安心を確保してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

引き続き、よろしくお願いいたします。

介護老人保健施設「なでしこ」の事業終了とコロナ感染症の関連について、特にないという市長の答弁はありましたが、その辺りもう少し詳しく担当課にお話しいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

施設を運営します厚生連からは、看護職員が不足し、今の地域医療を存続させるか、また介護老人保健施設の存続、この2つの判断に迫られる中、病院の医療体制を優先するため老人保健施設の「なでしこ」を廃止せざるを得なかったと伺っておりまして、新型コロナウイルスとの関連性はないものと捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

「なでしこ」は、医療機関の中の介護施設ということの安心感があり、当てにする市民が多かった。それだけに「なでしこ」がなくなることへの不安や影響も大きいと考えます。今後、新しい受入れ先や在宅の医療対応はどうなっていくのか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

田原議員おっしゃいますように「なでしこ」の存在につきましては、病院と家庭との間の施設ということで、市民の期待も大きかったものと認識しております。この廃止に当たりましては、利用されている方、また、その家族が困ることのないよう厚生連におきまして、今後の介護サービスの調整や受入れ先の調整を行っているところであります。

サービスの調整につきましては、利用者の状況等に応じてになるかと思いますが、ショートステイ等の在宅サービスを基本に特別養護老人ホームやグループホームへの入所、また、在宅での疾病等における療養を必要とされる方には、訪問看護によります対応を調整いただいているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

まさに地域包括ケアシステムの推進、そこには市の働きがさらに必要だろうということで、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

「なでしこ」の閉鎖は、医療人材不足が原因との課長答弁が先ほどありましたが、コロナ感染症への対応で糸魚川総合病院の医療人材不足に拍車がかかり、地域医療体制の崩壊につながることを私はずっと心配しています。現時点での糸魚川総合病院への影響について、今後の病院運営への市の支援について、この機会に伺ひます。具体的にどうすると、ご説明いただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今のところ新型コロナウイルスの影響による医療従事者の離職ということは、ないものと伺ひております。

しかし、いつ感染者が発生するのか、あるいはいつ入院患者の受入れが始まるのかというふうなことで、不安な状態での勤務が続いているというふうにご考へております。このため県と協力しまして、医療従事者の宿泊施設を確保するというごことで従事しやすい環境の整備にご努めております。

また、市としましても院内感染を防止する取組に対し、補助事業による施設整備等の支援を行いたいというふうに考えております。いずれにしましても病院側と情報共有をしながら、今後とも必要な支援に努めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

今回の質問、コロナ感染症への対応はもちろんですが、私が常に心配するのは、糸魚川総合病院が担う大切な医療、救急、出産・分娩、透析など、なくてはならない医療の確保です。市民が安心できる医療体制の確保に、市としてもしっかり取り組んでいただきたい。これまでも再三お願いしてきたことですが、医療の質問の最後に改めて要望いたします。ご答弁を頂きたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今お話のありました内容につきましては、糸魚川総合病院、それから新潟県と連携しながら、これまでも地域医療の体制の確保に向けて取組を進めてきております。糸魚川総合病院については、市内唯一の基幹病院であります。これはご案内のとおりでありますし、今後とも、今ほどありましたなくてはならない地域医療の体制が確保できるように、引き続き努力をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、売れる農業の推進についての2回目の質問です。

地域農業のこれからを考えるとといった場合に、「売れる農業」をキーワードに農地の問題、生産者の課題、販路と流通、消費の拡大、利益の確保と事業の継続、持続可能な社会の実現やSDGsとの関わりを学ぶ教育など、農業は地域に暮らす私たちの生活の基本であることを確認する必要があると思いますが、担当課はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

当市の農業につきましては、議員ご指摘のとおり、食料生産はもちろん産業の1つとして、また、地域コミュニティなどの私どもの市民生活に身近な関わりを持つものであり、しっかりと市民の皆様、農業の大切さを分かっていただく、再認識をしていただく必要があるというふうに考えてござ

います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

SDGsと農業の関わりを学ぶ教育、あるいは農業は、地域に暮らす私たちの生活の基本であると。このことを学ぶ必要があると私は思います。

そこで、教育委員会の見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

お答えいたします。

学校現場におきましても農業学習、それから農業体験、そういった活動につきましては、大変重要な教育、学びの場だというふうに捉えております。これまでも小学校では、生活科あるいは総合的な学習の時間、社会科の学習、あるいは家庭科、そういったものについて、米の生産あるいは加工、消費、さらに文化祭や、あるいは道の駅等での販売、そういったところまでを含めて活動を行ってまいっております。

併せて、そういった一連の活動には、地域住民との深い交流があって成り立っております。そういった中で農業、食料生産についての大切さを、子供たちは実感的に学んでいるものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。中野市では、中野市売れる農業推進室として農業振興に積極的です。糸魚川市もその戦略に学んでほしいと今回質問に挙げていますが、この点、改めて担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

中野市の農業につきましては、農業の主力は果物、キノコなどということでございます。そういった中で、当市は米ということと比較しますと、やはり鮮度や保存期間など、また販路、販売方法に違いは出てきているのだろうということでございます。そういった中ではありますが、基本的な情報発信の面など中野市の取組をも参考にしながら、当市におきましてもしっかりと農業振興に取

り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

中野市と糸魚川市では、風土も歴史も農業を取り巻く環境も違いますので同じことはできないかもしれません。

ただ、売れる農業ということで、市が推進している、市が先頭に立ってやってる。その情報発信の在り方、ここを学んで、ぜひとも取り組んでいただきたいということでございます。その点もう一度ご答弁いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

情報発信につきましては、私どもしっかりと対応していくということでございます。JA等の発信、また、私どもの発信ということで区別をつける。また、生産者の皆さん方からも受け入れられる情報発信をしていくということでございます。そういった点を含めまして、しっかりと研究して、これから取り組んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の質問のために、私は糸魚川市担当課、市内の専業農家さん、JAひすいさん、越の丸茄子集荷場、JAひすい直売所食彩館などを回って、お話を伺ってきました。売れる農業を1つ考えるにおいても、様々な課題や問題があることが分かりました。今回、その全てに立ち入ることはしませんが、あと何点か質問したいと思います。

まず、コロナの影響で市内や首都圏への農産品の販売が落ち込んでいないか。市内農家やJAの現状と今後の市の対応について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

コロナの影響につきまして、今回、私どものほうで主立った法人や生産者の方々へ聞き取りを行ったということでございます。議員のご心配していただいておりますとおり、やはり落ち込んでいる農家の方々はいらっしゃる。けども逆に売上を伸ばしているところもあります。全体としては、現時点では影響は少なかったものだろうというように考えております。

また、影響を受けた農家に対しましては、私どもJAとも連絡をしながら、今現在では国の持続化給付金などの支援策、また、国の他の支援策についてもご紹介、また、協力・対応していくとい

うことで進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川の特産品としては米がありますが、よりよい価格で販売できていますか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

当市内の生産者の方々におかれましては、消費者との直接販売をされている方、また、JAのほうに出されている方ということでもあります。いろいろいらっしゃるということでございます。その中で今価格面だけではなくて、様々な作業の手間、また、クレーム対応等のことも考えつつ、トータルな面で個々の生産者が経営判断の中で動いていらっしゃるということでもあります。そういった中で現在のよりよい価格というところにつきましては、それぞれ考え方は違うんだろうなということでもあります。

また、市のほうにおきましては、糸魚川産米の付加価値を高めるために糸魚川産高品質米認定事業というものを取り組んでおります。今後も農家の皆さんの意見を聴きながら、関係機関として、また支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

若い方が米を食べなくなった。安い米を求めているという傾向がありますが、ここを変えていきたいと思います。そのアイデアがあれば、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

若い方の米離れということでございます。こちらにつきましては、当市のみならず、全国的な傾向であろうかというふうに考えているところであります。私どもとしますと、先ほどこども教育課長のほうからもお話ありましたとおり、まずは足元からということで学校現場における農業学習、これはJAのご協力によりまして農業教室、また市内の農業施設見学をはじめ、また、ジオ給食も行っているということでございます。

特にジオ給食では、地元の食材を生かした献立や週4回糸魚川産コシヒカリによる米飯給食を行っているということでございます。食育として地元の食材を味わい、故郷の味として定着することを期待しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

売れる農業の実現に向けて、ナスや枝豆をブランド化することの必要性については、意見は一致していると思いますが、首都圏販売、地産地消、それぞれの課題について担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

お答えします。

越の丸茄子につきましては、市長答弁にもありましたとおり、既にブランドが確立されているというところがございます。したがって、首都圏を中心にまずは販売されているということであり、また、市内でも食彩館等、直売所で販売されており、市民の方からも好評を頂いているという状況であります。

枝豆につきましては、現在、実験栽培中であります。現在は、市内を中心に販売しておりますが、取組を検証する中で、ブランド化についても検討していきたいというふうに考えてございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

越の丸茄子、おいしいですね。先日もテレビで連続して放送されていまして。新潟県は、ナス王国とも言われ、様々な種類のナスが取れる中で、例えていえば越の丸茄子は糸魚川の、そして新潟のスターと言えるものです。今後、このスターを全国で売れるものにすると同時に、地元で愛されるアイドルとしても育てていくことも大切だと思います。アイドルを売っていくには、ファンが多いほうがいい。であれば、もっと増産して流通させる工夫や施策が必要になってきます。今後、越の丸茄子及びナスが、米に代わる収入源となるためには、どのような課題がありますか。また、その課題に対して、今後、市はどのような取組をしていきますか。このことをJAにお願いするだけでなく、市自ら進んでできることは一体何でしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

稲作に比べまして丸茄子の生産は、大変手がかかるということがございます。ふだんの世話から出荷に至るまで大変な作業時間があり、なかなか丸茄子で大規模な面積を栽培することは難しいという状況でございます。そのような状況の中でもありますので、現在、糸魚川市でも市内の農業者の皆様には、稲作との複合経営ということで動いていただいております。また、生産面では、やはり高齢化による面積縮小が課題となっております。

私ども糸魚川市としましては、新規取得者の確保のため、県と連携しながら、丸なすミニ塾を開講し、熟練農業者を講師とした栽培指導を継続して行っているところであります。なかなか効果は見えてこないという現状がございますが、こういったことを関係機関としっかりと連携しまして、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

枝豆について伺います。

新潟県が、今後、育成とプロモーションに力を入れる枝豆ですが、丸茄子のシーズンが初夏から11月までであるのに比べて、枝豆は短く、しかも鮮度がすぐに落ちてしまうということで、こちらの新しいスター候補は扱いが大変とも聞きますが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

議員ご指摘のとおり、枝豆は鮮度が落ちやすいということでもあります。したがって、現時点では、市内消費が中心となっているということでもあります。実証栽培におきましても、来年は作付面積が増える予定であります。そうなってきますと、やはり市外・県外に向けた流通ルートの確保等が課題ということがございます。新鮮なままに出荷をすると、そういった体制を整えていく必要があろうかと思っておりますので、今後も関係機関とともに課題について検証してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

米、越の丸茄子、枝豆の3大スターで糸魚川市の売れる農業を実現する。そんなイメージを広げていきたいと思いますが、それには若い人たち、中高生、子供たちになじんで覚えてもらう。食べれば当然おいしいので好きになってくれると思いますが、そこへの取組について、こちらは教育委員会に、いま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

こちらのほうは食育に関することとも関係するわけですが、食育の視点から言いますと、先ほど農林水産課長もお話ありましたが、地産地消メニューを給食の中で取り入れ、生産者と交流しながら、その味を味わう。そして、直に交流をしながら、その生產品の価値、そういったものを体感的に理解していく。そんなような取組を全市を挙げて行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

売れる農業推進には、JAと市は情報共有できているところをさらに見える化すべきです。JAひすい直売所食彩館が、移転・拡大して10月にオープンと聞いています。この機会に、例えば糸魚川市もホームページやSNSで売れる農業のコーナーを作って、JAをバックアップしてはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

直売所の支援につきましては、パンフレットの作成、また、情報提供ということで、これまでも取り組んできているところであります。

ご提案いただきました売れる農業に特化したホームページ、SNS、また、食彩館への特化的な情報ということにつきましては、先ほど中野市の例もございましたが、必要な情報につきまして、JA、また生産者の皆さん含めて、お話しさせていただきながら、意見交換させていただきながら研究してまいりたいということで、今現在考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

売れる農業推進には、市内専業農家としっかり向き合い、課題解決に向けて協力と支援をすべきです。人材確保への支援と売れる品目を選択・集中して、効率的に作るための機械化への投資への支援、また、ネット販売サイト、新潟直送計画への出店などへ支援があるとよいとのこと。専業農家の話をよく聴いて、要望に添うよう予算を考えていただきたい。最後、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

私ども農林水産課につきましては、専業農家の方々はもちろんのこと、農家の方々お一人お一人と機会を見つけてお話し合いをしていきたいということでございます。ご相談いただくときもございしますが、先ほど来、出ております地域農業のこれからを考える会や認定農業者連絡協議会など、機会を捕まえましてしっかりと話をしていきたいということでございます。

また、今回、補正予算で新型コロナ対応として、インターネットショッピングモールへの出店費用の補助金を上げさせていただいております。現在の高付加価値支援化事業などを含め、農業者の所得確保に向けて、私ども今後とも取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

分かりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

順番を入替えて、行政情報伝達にアニメを生かすことについての2回目の質問です。

アニメは、若い人向けの有効なコミュニケーションツールだと私は思いますが、その点を改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。

議員おっしゃるとおりアニメを情報発信に使うということは、1つの手段としては非常に有効なものだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

富山チューリップテレビの広報の取組にハッピーくらぶというのがあります。このアニメキャラクターが、Vチューバー、奥田ふたばさん、オンデマンドで視聴者のお誕生日のお祝いなどメッセージをくれて、見ると私はハッピーになるのですが、担当課長はご覧になりましたか、ハッピーになりましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

富山チューリップテレビのハッピーくらぶ、拝見させていただきました。アニメキャラクターがナビゲートをしたりメッセージをくれたりと、若い方や子供たちには情報を伝える上で非常に効果のあるものだと感じております。何よりハッピーかどうかは別にして、親近感を覚えました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ご覧いただいたんですね、ありがとうございます。私が注目したのは、これがその画面です。この子供向けハッピーくらぶのページから、富山西総合病院を紹介する。この先の医療へという動画もすぐに見ることができます。スマホやウェブでは、バーチャルなアニメとリアルな地域医療が連続しているということです。子供たちは、自然と地域医療に触れ、医師、看護師の仕事に興味を持

ち、進学から就業へつながるようにアニメを活用できないかと思い、今回提案しております。総務課長、健康増進課長、教育長、それぞれの見解を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

情報発信を担当する立場でお答えさせていただきたいと思います。

情報発信にアニメを活用するということは、手法の1つとして面白い取組だと考えておりまして、特に若者や子供たちに向けて発信するには有効な手段であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

健康増進課におきましては、医療人材の確保は、今後とも努力しなければならない大変大きな課題であります。ご提案いただいた、子供たちが興味を抱くアニメを入り口にし、医師、看護師などの職業を紹介することにつきましては、1つの手法として今お聞かせいただき、今後とも参考にさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

糸魚川市では、キャリア教育を重要というふうに位置づけて取り組んでおります。それを推進していく中で、アニメということがございます。1つのツールとしては有効だというふうに捉えておりますが、アニメだけというわけにもちょっと行かない部分もあろうかと思っておりますので、全体を捉える中で子供たちに分かりやすいキャリア教育を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

各課長さん、教育長さんから前向きなご答弁を頂いたと思います。課題はあろうかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、えちご押上ひすい海岸物語の2回目の質問です。

パネルを使わせていただきます。

前回の一般質問でも、この駅のデザインセンスに触れました。市の答弁は、これは昔、押上の浜で見られた船小屋を模したものだそうで、地域の特色を生かした歴史性に沿った、また、普遍性を

持つものだという国際的な建築コンテストのプレゼン並みの解説がありました。

ただ、これを見て、市民や観光客の皆さんが、そう思いますでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

前回の質問で、船小屋というものをイメージしたこと、あと船小屋がイメージできるかといった点では、もうちょっと研究が必要であるということをお答えさせていただきました。形は、このようにシンプルな状況でございますが、今、議員おっしゃったように、より多くの方にイメージしていただけますように、あとまた長くお使いいただくということを前提に、これから素材ですとか色彩等を煮詰めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

私は、子供の頃からいつも浜で遊んでいました。その景色を今も覚えています。また、学生のときは、糸魚川の風土に根差した建物のデザインに興味があり、糸魚川の建物を見てまいりました。押上の船小屋というのなら、もっとシンプルなものじゃなかったかなと思います。言うなれば、お金をかけられない掘っ建て小屋、船と漁具を入れておくだけのスペースですから、二棟に分かれたこのような形ではなかったと思うんですよね。先ほど課長のご答弁では、シンプルだというお話でしたが、もっとシンプルにしたらどうでしょうか。そうすると船小屋のイメージがさらに出るような気がしますので、ご検討いただきたいと思います。

それはさておきましても、このデザインのセンスが高校生や若い方や観光客に受けると思われますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

いろいろご指摘ありがとうございます。若い方ですとか観光に来ていただいたお客様にインパクトを与えるような、映えるですとかとんがったようなデザインではないというふうに認識しております。

ただ、駅を利用した高校生が、今ほど議員おっしゃったように、将来、大人になったときに学生時代の通学風景として思い返していただければ、そういう長いスパンで考えますと、それを思っ受けたというふうに考えても私はよろしいのではないかというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

シンプルでシャープなものの方がきれいですよ。

さて、押上地名つながりについてですが、9年前、いといがわ21クラブで墨田区へ政務調査したことがきっかけで、以来、墨田区議会議員や墨田区の押上の皆さんと糸魚川市民で、何度も交流を重ねてきたことはご存じのことと思います。このつながりを今後どのように生かしていくか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

これまで田原議員をはじめ、地元押上区の皆さんなどによりまして、墨田区の押上の皆さんと交流が行われてきておることは承知しておりまして、当市の食を含めてPRいただいていたというふうに思っております。今後とも住民レベルの交流を行っていただくとともに、またこの交流をきっかけとして誘客、例えばツアーの実施ですとかという方向で活動するなど、新たな交流についても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

墨田区とのつながりは、新駅開業に合わせて、マスコミ、テレビに話題を提供できると思います。トワイライトエクスプレス再現車両の六本木展示でご縁ができた日本テレビさんあたり、川西先生を通じてお願いすれば、押上ひすい海岸を全国に知らしめ、ひいては糸魚川やジオパークの宣伝にもなります。

また、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長さんが、講演会でお話しされた東京の京成電鉄の押上駅と姉妹駅とすることで都市交流に活用できます。大きなチャンスだと思います。このチャンスをどのように生かしていきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでの様々な事業の中、例えばトワイライトエクスプレスの再現車両の取組ですとか、その中で川西さんのご縁を頂いておりまして、また、えちごトキめき鉄道の鳥塚社長の講演会の中でもいろんなアイデアを頂いているところであります。今後、情報発信の仕方を含めまして、

様々な可能性について検討していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ヒスイ海岸ということで、富山県朝日町とのつながりで公共交通利用と観光に役立つと、これまで何度も提案してきました。何か進展はありましたか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでご提案いただいた中で、また、富山県の朝日町とは北アルプス日本海広域観光連携会議のメンバーとして、昨年度、サイクリストの移動のための輪行バッグの貸出しを行うなど、公共交通の利用促進を含めた誘客の取組を行ってきております。現在コロナ禍において、まだ具体的なものにはなっておりませんが、担当レベルにおきましては、ヒスイ海岸つながりで公共交通を活用した新たな取組ができないか話を始めたところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう一つ、HAKUBA VALLEYと連携した観光に押上ひすい海岸を活用しましょうと何度も提案してきました。何か進展はありましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、観光協会を中心としまして、白馬エリアの旅行会社や白馬観光局と相互の観光連携について協議を進めているところであります。秋に、HAKUBA VALLEYの宿泊施設の経営者を対象とした市内への視察ツアーを予定しておりまして、今後、押上ひすい海岸を含めて観光連携を深めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線のほうの活性化協議会というものがございまして、そちらのほうでも当然、北アルプス日本海広域観光連携会議との連携を図りながらなんですが、今度、来年度以降になるかと思えます、押上新駅との連携事業というものも計画してまいります。まだ検討段階ではございますが、これま

での大糸線だけではなくて、押上ひすい海岸を含めたツアーなどを検討して、実施してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

もう開業後の誘客の準備を始める時期です。そこで、駅周辺の観光飲食施設や商工団体との連携についてさらに伺いますが、課長自身で宿泊、飲食、販売のご商売をされているところを回って、観光やまちづくりについて協議をしましたか。観光ニーズ、ウォンツ、調べてありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

まだ入り口の段階ではありますが、新駅周辺の事業者の一部の方からお話を伺っているところでありまして、また、そのほかにも各所の会合の際など適宜お話をお聞きしているところでもあります。いろいろなアイデアをお聞きすることができましたので、今後さらに議論を深めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

これまでの取組を振り返って、何が不足してるかなというところを考えてみました。私は、観光ストーリーが必要なんだろうなと思います。

それで、今回私は、観光ストーリー「えちご押上ひすい海岸物語」これによってエリアのイメージを押し上げ、駅周辺に付加価値を作ること提言しているわけですが、しかし、行政も鉄道会社も地域住民も同じ方向を向いていなければ、そして何よりも地域住民が主役にならないければ、この物語は進まないことも分かっています。これは、この先の地域の課題ですが、まずは、このえちご押上ひすい海岸物語のような観光ストーリー、これを創っていく。この必要性について担当課のお考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

新駅ができることによりまして、その地域への出入口が1つできることとなりますので、ここでしか体験できないことですか、ここでしか見ることのできないものを回遊ルートを示すなどしまして、分かりやすいストーリーとともに紹介していくことが必要になってくると考えております。

議員がおっしゃいますように、これを進めるに当たりましては、当然、主役であります地域の飲食店等を含めた住民の皆さんのご理解とご協力が不可欠でありますので、今後とも地域の皆さんと協議を進めながら取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

どうぞよろしくお願いいたします。現在、駅の工事が進んでいますが、完成までの半年の間でもできることを、今回2つ提言します。

まずは、今ほどの観光ストーリー「えちご押上ひすい海岸物語」の展開において、アニメが人を呼ぶ力を生かしていくことが重要だと思います。アニメにより、駅とひすい海岸がつながっていく演出が考えられます。駅にアニメ「宝石の国」のヒスイのキャラクターを取り入れて、ひすい海岸の入り口というイメージを創り、アニメファンにとって訪れたい場所にはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご提言のとおり利用促進ですとか観光に来ていただくという面では、アニメキャラクターの人を引きつける力というのは大変魅力的だというふうに考えております。今ほどのご提言のほかにも、えちごトキめき鉄道のグッズに描かれているようなキャラクターですとか久比岐自転車道のPRキャラクター等もいろいろございますので、それらの連携というものを考えてまいりたいと思います。

また、ハード的には下り線側には、海からの風を防ぐための、季節風を防ぐための暴風壁等もホーム上に設置されますので、その辺りの有効活用ということも、併せて考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

2つ目の提言です。

えちご押上ひすい海岸駅のホームを、思い出の場所となるような工夫をしてはいかがでしょうか。駅のホームをひすい海岸のイメージにしてしまう。駅のホームをひすい海岸に見立てて、これは例えばですけども、ホームの床仕上げをコンクリートの洗い出しをベースに宝石に見立てたガラス玉、ビー玉を何列かの列にして並べます。そして、列車の乗り口とは逆のホームの縁に海岸で拾った小石を並べるスペースを造ります。そこに並べる小石は、観光で来た方、あるいはカップルの方から

思い出としてそこに置いていただいてもいいし、市民、子供たちが拾ってきたものでもいい。その小石の集まりを一定の期間ごとにモルタルで固定していきます。これは駅の床の工事が終わった後、何年もかけて多くの人に関わって完成させるひすい海岸駅のホームというイメージです。これでマイステーション意識を育むことができるのではないかという考えからのものですが、そのような取組はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご提言ありがとうございます。色のついた石をまぶされた床材というものを使用することで、ひすい海岸とのつながりというものを意識できるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、ホーム自体は、管理上はやはりえちごトキめき鉄道の管理下にございますので、その辺は調整が必要な事項になってくるかと思えます。

それ以外にも、またスロープの踊り場ですとか下り線側に、まだ未計画の部分の広場等もございますので、その辺りもえちごトキめき鉄道のほうと協議を進めながらになりますが、検討していきたいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ついでながらですけども、ホームの縁、一番外れというところには、人は行きませんよね。そこに石を置くということですから、その上を人が歩くことはない。あるいは縁のほうへ人を行かせないというためにも、そういう仕掛けはいいのではないかということでご提言させていただいております。ぜひともご検討よろしく願いいたします。

さて、駅周辺まちづくりについては、時間の関係で今回は少しだけ触れますが、駅開業後のまちづくりやにぎわいづくりを誰がどのように進めるか、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員からまちづくりのお尋ねでありますけども、やっぱりまちづくりというのは行政だけではできないというふうに思っております。やっぱりいろんな人の関わりというのが大事だというふうに思っております。やっぱり地元の皆様、それと民間の事業者様、それとあと行政、そういった関わりを得ながら、まちづくりというのは進めていく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

地域には、これまでもいろんな関係性があったと思います。そこに新しい駅ができる。駅の周辺ににぎわいを作りたい。そういったときに地域の人と人、あるいは人と駅との関係をもう一回考え直していく、再構築する。これがリノベーションのまちづくりだと思います。これを押上駅周辺でも進めていただきたいということでございます。

駅周辺のまちづくりは、次回も質問しますが、新駅近くに気になる建物があるので、そこに関連づけて1つお尋ねします。

今後、新駅周辺のまちづくりとか、まちづくりの活動の拠点があったらいいなと思います。駅から徒歩2分のところに中部森林管理局姫川治山事務所の建物があります。もし、そこが空き家になる場合、壊すにはもったいない立派な建物です。そこで、この建物を市で引き取って使えませんか。あるものを生かしてまちづくりをしませんかということなのですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

今、議員からの1つの例示というふうに私は受け止めさせていただきたいというふうに思います。確かに新たに造るという発想もいいんですけども、やっぱり今あるものを生かす、あるものを長く使っていくという、そういった感覚というのは非常に大事だと思います。今後、周辺も含めてでありますけれども、いろんな条件があるが思います。そういったものをクリアする中で、あるものを活用していくという考え方を取り入れたもので進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。新駅の周辺には、新幹線の高架下のスペースですとかいろんなものがあります。これの使い方をいま一つ考え直すことで、あの周辺がにぎわったり、住みやすい場所に変わっていく可能性あるんですよ。それをぜひこれから皆さんと一緒に考えさせていただきたい。次回また質問させていただきます。

今回の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時25分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時17分 休憩〉

〈午前11時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。〔4番 吉川慶一君登壇〕

○4番（吉川慶一君）

清政クラブの吉川慶一です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルスの感染による市内の観光に及ぼす影響について。

- (1) コロナ禍による市内観光客が減少していると聞くが、昨年と比べて、経済への影響はどのように変わったのか伺う。
- (2) 周辺地域及び市内の各イベント等の中止・延期により及ぼした影響と今後の対応を伺う。
- (3) 糸魚川元気応援券を利用して、市内経済の底上げができたか。今後も消費を後押しする計画はあるか伺う。
- (4) インバウンドを利用した企画での、観光地と観光客の見込みはどうか。また、今後の対応について伺う。

2、糸魚川市公共施設等総合管理指針の基本方針について。

高度経済成長期に整備された公共施設等が老朽化し、これから更新時期を迎える。財政状況が大変厳しい中、必要施設を維持していくためには、老朽化対策をしていかなければならない。

人口減少や少子高齢化など社会情勢の変化に対して、公共施設等の適正化を図る必要がある。

今後、公共施設等の現状を把握し、改修や更新に係る中長期的な経費の見通し、管理に関する基本方針を定め、適正配置及び管理を行うことを目的とし、「総合管理指針」を策定した。

この指針には、①「社会情勢の変化に応じた適正配置を進める」こと、②「マネジメントによる効率的・効果的な管理を行う」こと、③「長寿命化を図る」こと、④「財政負担を軽減・平準化する」こととある。以下伺う。

- (1) 現在ある公共施設の地域の便利さ及び利活用をどのように考えるか伺う。
- (2) 今後、公共施設は、大規模改修、建て替えを迎えるが、整備計画はどうか伺う。
- (3) 当市の長期財政見通しでは、公共施設等の数量をこのまま維持していくことは困難ではないか。現状や課題について伺う。

3、市役所本庁舎への爆破予告について。

先日「7月27日、糸魚川市役所本庁舎を爆破する」旨のメールが届いた。市では市民等の安全を優先とし、7月27日（月曜日）午前を「臨時閉庁」とし、敷地内への立入りを禁止することに関する情報公表があった。以下伺う。

- (1) メールの内容から、職員と市民の安全をどこまで検討できたか。ホームページ、安心メール、防災行政無線等で市民周知の検討をしたか。
- (2) 近隣市民周知で、行政区長に告知徹底できたか。近隣市民は不安を感じたと思うが、危険

に伴う指示を出したのか。

(3) 職員はどこで待機していたのか。もし、重大事件が発生したときの対応はどうか。

(4) 事件は調査中であるが、検証結果の公表をどのように考えるか。

以上で、1回目を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、特に宿泊施設や飲食店など観光に関係する業種で大きな影響が出ております。

2点目につきましては、飲食店をはじめ、幅広い業種に影響が出ているところであり、今後、国・県の動向を踏まえ、段階的に実施していく必要があると考えております。

3点目につきましては、元気応援券により1億5,000万円を超える額が市内の飲食店等で消費され、一定の効果があるものと考えております。引き続き地域経済の回復に向けて、第2弾のプレミアム商品券に取り組む予定をいたしております。

4点目につきましては、現時点では海外の観光客は来られない状況ではありますが、新型コロナウイルス感染症の終息後に向けて、受入れの準備を進めてまいりたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、それぞれの施設の設置目的が十分に果たされるよう利活用を図ってまいります。

2点目につきましては、施設の必要性を検討する中で、予防保全と長寿命化に取り組んでまいります。

3点目につきましては、保有する施設面積が課題であり、老朽化対策や更新費用が膨大になると認識しており、公共施設等総合管理指針に基づき計画的に管理してまいります。

3番目の1点目につきましては、7月22日から爆破予告当日の27日までの間、ホームページ、安心メール、防災行政無線、報道機関への発表によりまして、庁舎の閉庁などについて市民に周知しております。

2点目につきましては、周辺の区長へ事件の概要と臨時閉庁についてお伝えいたしました。また、警察と庁舎内外を巡視の上、不審物の発見など異常が見当たらなかったことから、近隣住民への指示は出しておりません。

3点目につきましては、万が一に備え、事件対応以外の職員は自宅待機といたしました。また、警察署員から警備していただき、消防署の車両を待機させております。

4点目につきましては、捜査中の案件であり、現在のところ公表する事項はありません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

2回目の質問をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症でもって相当市民に不安を与えてきておるわけですが、この問題について若干お尋ねいたします。

他市では、感染陽性者が発生していますが、幸いにして、当市では1名の発生でした。このまま感染防止ができますことを願いますとともに、新型コロナウイルス感染による市内に観光に影響が及ばないように願っております。これについてお伺いいたします。

まず1点目、コロナ禍によって市内観光客が減少しているが、昨年と比べて市内の影響が大きいと思っております。担当課で調査した、並びに担当課としてどの程度調査されたか、ご答弁をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市内の主要な観光施設についての調査であります。昨年と比較して、現時点まで約4割ほどの見込みとなっております。

また、経済面といたしましては、観光関連であります宿泊業、旅行業、飲食業では、さきに行われました糸魚川経済団体連絡協議会の調査によりますと、全ての事業所で売上が減少しております。そのうちの74%ほどが5割以上、前年と比べて減少しているということで、大変厳しい状況であります。その後、いろんな経済対策によりまして、若干改善されてきてるとお聞きしておりますが、その後の状況につきましては、8月に調査が行われたところでありますので、現在集計中のこととのことであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

大変市内には大きな影響が出てることを今お聞きしたんですが、やはり市民がやはり消費していただくより、市内へ来ていただく観光がやっぱり主でないかということで、先ほども言われたようにホテル・旅館宿泊者、この減少によって大きく影響していると思っております。それで先ほど74%ぐらい影響が出ているとなってるんですが、この回復見込み、これをどんな手段をこれから取るうと思っておりますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

これまでも状況を把握する中で、様々な経済対策に取り組んできたところでございます。また今後とも、当初は飲食業、宿泊業がかなり落ち込んでいたわけなんですけども、今は幅広い業種にも広がっておる状況でありますので、今後、それらの状況を見据えて、適宜適切な取組を進めてまい

りたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

適切な方法って、こう言うんですが、もう一点確認するんですが、具体的にじゃあ行政でどんなことを計画、予定されるんですか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この先の状況によって検討することになりますが、当面は、この議会に提案しておりますプレミアム商品券の第2弾によりまして、市内の経済状況の底上げを図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

相当冷え込んでいるわけですので、ぜひ回復できるように細かく支援していただきたいと、こう思っております。飲食業、それから先ほど言いました宿泊業の方、大変ですのでぜひ細かく手段をお願いしたいと、こう思います。

それから、周辺地域に及ぼす市内のイベント、これが中止したり延期したりされております。もう半年もこんなこと続いているわけです。これが収まるというのは全く見えてないわけでごさいますんで、これを、この影響、どれぐらい影響があったのか、例えば分かる範囲でお答え願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

イベントにつきましては、全てのイベントを把握しておるわけではございませんが、昨年度、観光イベント補助金を交付しました17のイベントにつきましては、今年度は全てにおいて中止、現時点では全てにおいて中止ということになっております。仮にこの17のイベントが全て中止になった場合、入込客数は12万人ほどというふうに想定しておりまして、様々な業種に影響が出ているものと想定しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

大変な数でないかなと思う。12万ということは、それに伴う糸魚川に潤う、変わってまいります。早く収まればいいわけですが、そういうわけにいきませんので、対応を十分取らなきゃならないと思います。今後の対応として、このイベント回復をする方法、何か対策を考えていらっしゃるかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

イベントの規模ですとかにつきましては、国ですとか県から指針が示されておりますので、それらに対応する中で、安全予防対策は取るのは当然のことなんですけど、できるものから順次取り組んで地域経済を回していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

具体的にはまだ煮詰まってないということでしょうか、ぜひ計画を早めにしていただいて、市内回復をできるように配慮していただきたいと願うところでございます。よろしくお祈りいたします。

それから次に、糸魚川元気応援券利用して市内経済底上げつちゅうこととありますが、まず、元気応援券どれぐらい、今現在どれぐらい発行されて、どれぐらいの収入でございませうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

元気応援券につきましては、額面総額で1億5,000万円を発行したわけとありますが、また、今月末までがご利用いただける期間になっております。8月21日の振込分までであります、約6,400万円が換金されております。

その業種別の内訳といたしましては、飲食業で約87%、ホテル・旅館で10%、運送業で1.6%となっております。飲食業はもとよりホテル・旅館につきましては、この機会に市民の方の市内での宿泊にご利用もいただいております、一定の効果があったものというふうに評価しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

相当ご利用いただいているということは確認できました。今後も消費を後押し、ぜひ後押ししていただいて早い回復を願います。

それから新型コロナウイルスの感染防止で、収束後、観光客を回復する対策見込みで、それから

食のまちと言われております。その資源をどのように、食のまちの資源、地元の食を生かすためにどのような、要するに企業等打合せ、また観光業界と話をされてるか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今コロナ禍におきまして、一般的にマイクロツーリズムということで、近場の観光ということが推奨されております。そのような中で、市民におきましても市内へ観光に行って、また、地元の食材を楽しむということで、また地元の食を再認識していただく機会にもなるというふうに考えております。

また、特に白馬エリアとのつながりにおきまして、まだインバウンドはない状況ではありますが、インバウンドが帰ってきたときにすぐ対応できるように、HAKUBA VALLEYの日本人ですとかHAKUBA VALLEYにお住まいの海外の方を中心とした視察ツアーとかも検討しながら、収束後に速やかに対応できるように準備を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

先ほど市内の食をお願いしてるんですが、また最近大いに取り上げられとるジオパル、観光施設のジオパル内でもやはりこれから利用していきたいということを聞いております。この利用を具体的に何か、もう計画されているのかどうかをお伺いします。ジオパルを利用した食を。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、トワイライトエクスプレスの再現車両が公開されて、多くの皆さんからご覧いただいとるわけなんですけども、せっかく豪華な食堂車があるということから、何とかあの車両の中で食事を取っていただけないかということで、今、関係者と協議をしておるところでありまして、準備が整い次第、取組を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ期待しておりますんで、ぜひ早めに取り組んでいただきたいと思いますんで、よろしくお願ひします。

それから、続きまして4番目、インバウンドを利用した計画で観光地の観光客の誘客です。先ほどお聞きしまして、相当落ち込んでいるのはあるんですが、これはコロナ禍がどうなるか分からないという大変不安なところでもあるんですが、ぜひ今ご提案ちゅうかご検討いただきたいと思いますことを申し

ます。

ジオパークとの関係で、観光客の誘導計画は、何かこれによって変わったので何とかこれを基にしていきたいという計画はあるのでしょうか、この後、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、このコロナ禍におきまして海外からの渡航がストップしておるわけでありまして、インバウンドのお客さんはゼロであります。先ほども少しお話ししましたが、インバウンドが戻ってきたときのために、何とか白馬とのパイプを太くして、連携を深めているところであります。

また、ジオパークの絡みにつきましては、いろんな交流はできませんので、今オンラインでの、リモートでの会議を行うなど、その取組についても関係者と議論しておるところでありまして、また、渡航ができるようになりましたら様々な取組も考えられます。また、来年度は世界ジオパークの再認定の年ではありますが、現時点では行う予定であります。またこの状況によっては当然変わってくるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

これから要望いたします。今お聞きしたので、これからジオサイトを利用した、またジオパークを計画よく利用していただきたいと、こういうことを要望しておきます。

それからもう一点、石のまち糸魚川、これも観光の目玉、必死ですから、ぜひこれも一緒に合わせてやっていただきたいと思っております。再三、せつかく指定したわけでございますので、貴重な国石及びこれから新潟県の石にしたい、もちろん糸魚川の石であるわけですから、ひすいも絡めたもので、ひとつよろしく願いいたします。

それから続きまして、2番目の質問をさせていただきます。

公共施設等の総合管理基本方針について、お伺いいたします。

公共施設が非常に老朽化して、更新時期を迎えとるちゅうことも明らかに分かるわけですが、非常にそれに伴って財政が大変厳しくなるんじゃないかなと。必要施設は、みんな必要なんでしょうけどやはりここで整理していかなきゃならない場合も出てくると思います。ぜひこういうものを十分配慮した中で進めていきたいと、こういうことを願っております。

ただ1点、人口減少と少子高齢化、社会変化を十分配慮する必要があるかと思えます。これも合わせてお願いします。

市内には公共施設約400施設あるとお聞きしております。これを整備していくには、大変な財政問題が出てくるんじゃないかと思えます。以下について私なりに質問いたします。

やはり1点に合併前にそれぞれ整備した施設を引き継いだため、多くの施設を現在所有しております。地域別では公共施設、文化系施設、スポーツ施設、充実した施設が老朽化した施設が増改築の時期になってきております。この施設を見直す計画をどのように進められるか、概略をご説明願

いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃいましたように今後の財政事情につきましては、少子高齢化等の問題もあり、大変厳しくなってきたかと思っております。また、このコロナの関係もございまして、大変不透明な状況になってきたかと思っております。その中で、公共施設等の管理指針ということを作成いたしまして、4つの基本方針という形で社会情勢の変化に応じました適正配置、効率・効果的な管理、長寿命化、財政負担の軽減・平準化等を4つの基本の柱としております。

また、先ほどおっしゃったように合併以前に持っておりました施設につきましては、それぞれ目的がございまして、それぞれの町、市の考え方で建設されたものかと思っておりますので、そのときの状況に応じたものだと考えております。そこら辺の考え方をきちんとまた把握しながら、現状に合った形で整備のほうの計画を立てていきたいと思っております。

手法としては、いろいろ複合化とか転用、統合とかいろいろあるかと思っておりますが、そちらのほうは、施設カルテ等を見ながら利用状況を勘案して考えてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

今、課長から概略をお聞きしました。大変厳しいちゅうことは分かってお聞きしておるわけですので、ぜひ思い切った政策をしていただかないとこれは乗り越えるところに行かないかなと、こう思っております。

2番目に、もう一点私心配しとるのは、老朽化施設がありますね。老朽施設の増改築、用途廃止、この計画を非常に心配しております。これを先ほど言われたようなこともあります。ぜひ、まだほかに考えがあるようなら、付け加えてご答弁願いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

老朽化施設につきましては、現在、今市の施設のほうは大体合併以降に整備したのも数多くございまして、10年から30年ぐらい、まだ耐用年数等考えますと約半分程度はもう少し保全等しながら運用できるかなとは考えております。

ただ、そうしましても、その施設の在り方でありましたり使用頻度等ございしますので、予防保全や長寿命化等を図る中で計画的に整備のほうを進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

分かりました。時間の関係等もあるので。概略、課長からお聞きしましたので、詳細については、まだこれから計画段階だと思いますので、これ以上、実は触れません。

それで、最後をお願いなんですが、公共施設は非常に先ほど言った保有する面積が大きいちゅうことと、老朽化と、これからは費用が相当かかると、こういうことを重点的にお願いして、この項目を終わりたいと思います。

それから、続きまして3番目を質問させていただきます。

先ほどお話ししましたように、3番目の市役所の本庁舎の爆破予告についてと。先日、7月27日、糸魚川市役所本庁舎を爆破するとのメールがあったと。これについて若干疑問がありましたので、お尋ねいたします。

私なりにするのは、考えますとこの爆破予告は過去にもない脅迫内容と想像します。いたずらとは私は思いますが、そのときの危機管理上、庁舎内外に不審物がないか、安全管理をどこまでできたのか、まず最初にお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

メールを頂いてから、すぐに警察のほうに届出いたしまして、警察と一緒に捜査等をさせていただいております。

まず当日から、メールが届いた翌日といいますか、夜中に届いておりましたので、発見した当日から予告のあった日までは、随時、警察のほうから巡回をしていただいたり、毎日、庁舎内は警察のチームを組んでいただいて、各階全部見て回っていただいております。そのような体制を取らせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

関連して、二、三お聞きいたします。

これを聞いたとき、メール見たとき、メール内容から二日ほどありましたよね。そのときに職員に市民の安全管理をどこまでやるんだということを徹底できましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

メールを頂いた後、対応については総務課が中心となって方針等を決定いたしましたけれども、臨時部・課長会議を開きまして、各職員に対して通達をするようにということで、部・課長を通して連絡したところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

もう2問ほどお願いいたします。

これで1つ疑問がありました。近隣市民に、区長さんに周知したと、こうお聞きするんですが、実は、私聞くことによりや、聞き漏らしたということですが、そういうところがありました。これは事実、正直、聞き伝えですから、正直なところ8割か9割か分かりませんが、こういうことはあってならないと思います。この点についてどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

近隣の5区長につきましては、私のほうから直接お電話させていただいておりますので、聞き漏れというのは多分ないと思いますが、それ以外の区長さんにつきましては、私ら周知方法としてはメールであったりホームページであったり防災行政無線であったりということで、周知をしたつもりでございました。

ただ、皆さんのところに行き届かなかったということであれば、その辺は私らの、まだ配慮の足りないところだと反省しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

関連して、もう一点お聞きします。

これで、要するに市役所付近で事業所と危険を察して事前にお客様に休業通知を出したと、こういうことを聞いております。これは出すのは任意的でいいでしょうけど、こういうことを、まだその後どうなるとるか内容も分からんわと、こういうことでございますので、やはり危機管理上、大変な問題ですわ、事故があれば。ぜひ、この危機管理上、安全管理については、ぜひ徹底していただきたいと思いますが、これにご意見ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

確かに近隣の区長様にはご連絡させていただきましたが、警察と検証の上、近隣住民の避難までには必要ないということで判断させていただきましたけれども、私らのほうから近隣住民の皆様に対して、特にご連絡という方式は採りませんでしたので、その辺は私らのほうもちょっと配慮に欠けたというふうに考えておるところでございます。今後、あつてはならないことですが、今後の危機管理については、市民の安全を第一に考えて、そのように対応してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

最後に、危機管理でお願いします。

まず、職員の安全、先ほども言いましたように重大事故になると大変なことになりますので、危機管理だけは徹底してやっていただきたいと、最後に要望かお願いになりますが、これはたまたま事故がなかったということでもよかったんですが、これが大きな事故になると大変なことになります。また、二度とあつてはならないと思いますので、類似事故が発生しないように十分お願いしたいということ。

もう一点、防犯カメラと不審者チェック、こういうことも併せて、ひとつご検討いただきたいと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

夜間の警備につきましては、本庁の場合は警備員を配置しておったり、人感センサーを動かしております、それによって警備をさせていただいておりますが、今頂きました防犯カメラの設置については、検討させていただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

どうもありがとうございました。これにて終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

昼食時限のため、13時まで休憩といたします。

〈午後0時05分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、豪雨時、車を一時避難場所として使用する案について。

このところ毎年、全国各所で豪雨災害が頻発しております。特に大きな災害を引き起こす線状降水帯は、現在の気象予報で正確に予測することはできないと言われております。しかし、大方の降雨予想はできています。豪雨予報が出された場合は、ハザードマップで示された土砂災害警戒地域や浸水想定区域では、早めの避難が必要と思います。現実には、なかなか避難をしないのが現状のようです。そのしない理由に、避難所でのプライバシーが保たれないとの意見をよく聞きます。市が開設する避難所も、コロナ禍により多くの問題点があります。避難は、自助・共助・公助が基本と考えています。自分自身の命は自分で守ることは絶対に必要なことです。

そこで、1つの避難方法を提案したいと思います。

長野県では、車での避難場所を地図で公表したという記事が報道されています。この避難方法なら、他人に気を遣うことなく避難できると、多くの市民からの声を聞きました。この避難方法は、エコノミークラス症候群や交通渋滞など、多くの問題点はあると思われませんが、検討する価値は十分にあると思います。

市として、どのように考えるか伺います。

2、こどもフリーパスの利用状況と高校生への拡大について。

現在、こどもフリーパスが事業化されています。そこで、その利用状況と、高校生へ拡大するとした場合の問題点について伺います。

(1) 市内で運行されている路線バスの状況について、以下伺います。

- ① 市内の路線バス1台当たりの乗車人数はどの程度か。
- ② 市として、糸魚川バス株式会社への運行費補助金額はどうか。

(2) 現在のこどもフリーパスの利用状況はどうか、以下伺います。

- ① 利用人数はどうか。
- ② 利用者はどこの地域が多いのか。

(3) この制度を高校生に拡大してもらいたいと考えています。高校生に拡大するとした場合、

問題点は何か伺います。

3、コロナ禍及び猛暑における児童生徒の状況について。

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年にない大変な夏でした。当市の小中学校では、例年どおりの夏休みが取れました。そこで、夏休み期間及び2学期開始後の児童生徒の生活状況について伺います。

(1) 夏休み期間中、例年ですと家族で旅行に出かけたり、お盆には親戚等が帰省するなどがあります。しかし、コロナ禍と猛暑で例年とは大きく違った夏休みであったと思われます。そこで、児童生徒の生活態度等に大きな変化があったか伺います。

(2) 昨年、市内小中学校の普通教室にエアコンが設置されました。そこで、エアコン使用基準、現状の運用状況と設置による効果を伺います。

4、夏休み期間中の市公共施設の運営について。

今年の夏は、コロナ禍、そして、猛暑と例年にない大変な夏でした。特に毎年当たり前になってきた猛暑で、生活様式も大きく変わるものと思われます。そこで、市が運営する公共施設等の夏休み期間中の運営について伺います。

(1) 今年4月にオープンした健康づくりセンタープールについて、以下伺います。

- ① オープン後の月別利用者数はどうか。
- ② 利用者の年代などはどうか。
- ③ 子供の夏休み期間中だけでも、休日なしでの運営は可能か。

(2) 市内の図書館や公民館などについても、プール同様に夏休みを含めた長期休暇中は開館する必要があると考えます。今後、小中学生や高校生は、タブレットが必須となっていきます。しかし、通信環境が整っていない児童生徒の公共施設の利用について、検討が必要と思われますが、伺います。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、分散避難や避難者のプライバシーの確保の観点から、車中避難も有効な手段と考えております。車中避難が可能な一時避難場所の選定、エコノミークラス症候群や交通渋滞などの課題のほか、豪雨の中での移動によるリスクについても十分踏まえ、車中避難の取扱いについて検討を進めております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、元年度の乗降調査によりますと平日のバス1便当たりの乗車人数は、平均9人となっております。

2つ目につきましては、元年度決算額で約1億4,000万円となっておりますが、県の補助金や特別交付税で約1億2,000万円が措置されております。

2点目につきましては、元年度では延べ313人の児童生徒が利用しており、東中学校が一番多く、延べ154人の利用となっております。

3 点目につきましては、市の財政負担額の増加が課題と捉えております。

3 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

4 番目の 1 点目の 1 つ目及び 2 つ目につきましては、4 月が 6 7 3 人、5 月が 3 7 8 人、6 月が 2, 7 5 5 人、7 月は 2, 8 8 0 人、8 月が 3, 7 9 2 人となっており、小学生以下が約 4 8 % を占めております。

3 つ目につきましては、スタッフの確保や設備のメンテナンスなどの課題もあり、来年度に向けて指定管理者と協議してまいります。

2 つ目につきましては、今後の利用状況や要望を踏まえ、検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の 3 番目のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、夏季休業中、大きな事故や非行等の報告はなく、2 学期が順調にスタートしております。

2 点目につきましては、エアコンの使用基準は 2 8 度以上としておりますが、湿度等も加味しながら各校で適切に運用しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3 番（山本 剛君）

2 回目の質問をさせていただきます。

長野県での、ちょっと記事を読みたいです。

新型コロナウイルス感染拡大化の大規模災害発生に備え、県は 8 日、車で一時的に避難できる場所を示した地図をインターネット上で公開した。県は、これまで車で避難を促していなかったが、避難所での集団感染を恐れて、避難場所に行くのをためらう人に役立ててもらおうということというふうここに記事が載ってます。駐車場所には自動販売機や公衆トイレの有無などなんかをというふう載ってます。

また、小田原市では、風水害時に車で避難する住民のために、小田原市は、商業施設の駐車場を一時避難施設とする避難者は車中滞在が原則で、通常の避難所の過密化も緩和できることから、新型コロナウイルスの感染防止を図ると。やはり全国でも車で避難を結構してきているように思います。

私は、現在の避難方法は、都市型を中心に強要してるような制度に思えてなりません。以前の一般質問でも取り上げましたが、駅北大火時、市で開設した避難所は、2 日以降いなくなりました。

都会であれば近くに親戚や知人も少なく、仮にいたとしても住宅環境は狭く、避難者を受け入れられないため、公が避難所を開設しなければならないからだと考えています。

糸魚川市では、親戚や知人に頼んで、避難が可能な地域だというふうに考えています。私の考える避難所は、災害が発生した場合、まず自助、自らの責任で避難すべきであると思っています。そして、余裕があれば共助です。我が家が安全なら親戚や知人を我が家に来てくださいというふうにすることが、2番目で共助だと思っています。そして、やっと公助として、市の開設する避難所などを利用するのが基本だというふうに考えております。

今回の質問で主題である豪雨時、市からの避難情報を基に自ら判断して行動すべきと考えます。市内には、親戚、知人宅などに避難できない人もいます。その方は、市の避難所を利用することは必要とは思っております。家が土砂災害や水没などで住めない状況で、やっと避難所にお世話になるべきだというふうに私は思っております。

次に、私は、このところ頻発する豪雨災害と地震などの避難方法を分けて考える時期に来てるといふふうに思っております。豪雨災害では、高台にある住宅は避難する必要はありません。例えば高畑地区の避難場所は、青海中学校に指定されています。豪雨時、田海川が氾濫する危険性があるのに、橋を渡って避難する必要があるのでしょうか。これは避難ではなく、危険場所への誘導としか思えません。その地域によって高台に避難所がない地域もあります。浸水被害に対する避難場所も、今までと違った場所に考える、変える必要があると思います。今回のコロナ禍で世の中が大きく変化すると言われていています。この避難方法も3密を避けるため、大きく変えなければならないと考えています。

また、市の職員も減少する中、避難所の開設にも大きな負担があります。このことを踏まえれば、様々な災害を一緒くたにした避難所から、この豪雨による土砂災害、浸水被害をいま一度考え直す時期に来ているといふふうに思います。どうか検討をお願いいたします。

今日、朝、出がけに台風10号の報道がありました。やはり気象庁なんかも、もう1日前から避難してくださいという報道もあります。まさに避難方法が変わりつつあるんだな。市もそのことを考えていふふうに思っています。もし、意見がありましたら、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

今ほど議員さんがおっしゃったように、やはり車中避難というのは、今後やはり1つの避難の形態として確立されていくんだらうなといふふうに思っております。

ただ、その際にやはり避難のタイミングだとか、あるいは何でもかんでも車で逃げればいんだと、こういうことになってはおかしなことになりますので、その辺のところをしっかりと、こういう場合は車じゃ駄目だよとか、そういったところをしっかりと、決めて、また周知をさせてまいりたいといふふうに思っております。

それからもう一点、災害によって、やはり避難の動きが違ふとか、あるいは避難情報が出るのが違ふ。これはやはり気象庁も早め早めに情報を出すようなことを取り組んでいただいておりますの

で、やはりその辺も含めて情報の出し方、それから住民の方の避難の仕方、こういったところをしっかりと真意を理解していただいて避難してもらおう。自分の命は自分で守る。そこをしっかりと周知していきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

車での避難の利点もあると思います。例えば車であれば食料品だとか毛布だとか、自分で全部車に積んどくことができますよね。徒歩で逃げるんならリュックにこうして物は限定されますけど、車ならある面ではそういうことが可能です。

ただし、逆に言うと本当に水害が発生しるところに車で走って行って、水没にする危険性もある。そこら辺りをどうするかが大きな課題だというふうに思ってます。ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。

次に、子供のフリーパスについて伺います。

事務報告書に平均乗車密度というふうなものが載ってます。それには仙納から、能生中学から4.5人、笹倉温泉経由の焼山から糸魚川総合病院はゼロ人と、これの意味についてちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今ほどの平均乗車密度というのは、これは路線バス特有の指標でございまして、始発から終点までの間、平均でどれだけ乗車しているかというものを計るために、途中で乗ったり降りたりでなくて、始発から終点まで1人乗り続ければ1人ということで示す数字でございまして。これはお金のほうにもいろいろ絡んでくる特有な数字でございまして。

今ほど市長の答弁のほうは、議員のご質問の趣旨に沿いますように乗降調査の結果を基に、1便当たりの平均乗車人数というもので答弁をさせていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川バスに1億4,000万、県でも3,000万ほど補助があるというふうに思ってるんですけど、合わせて1億7,000万ぐらいの補助金だと思います。確かに生活を守るための路線バスですので必要なんですけど、この金額を考えたときに正直な話、かなりの金額です。その点どのようにお考えなのか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

確かにあの金額だけ見ますと、糸魚川バスに対して年間1億4,000万という非常に多大な支援をしとるといような状況でございますが、これは一面では、これからやはり車を運転できなくなるお年寄りのためにですとか、学校に通わなきゃいけない高校生のためにそういう公共交通というものを何とか維持・確保していかなければならないという糸魚川市の施策に基づきまして、これは行っておるものでございます。

ただ、このままどんどん青天井に補助金が増えていいというものでもございませんので、私どもは公共交通網の形成計画ですとか、実際の運行系統を見直す再編実施計画というのに取り組みまして、平成30年度から令和元年度にかけては、本当僅かではありますが、緩やかな費用の減少というものも見られとるような状況でございますので、これらの取組というのを経済性だけでなく、利便性と両立させたような取組というのを今後も継続してまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

確かに経済的な面だけでは計れないものがあるんだというふうに思ってます。ただ、やはり私は、この路線バスをもっとやはり有効的に使うべきだなというふうに考えております。

では、糸魚川バスの乗車券の種類、例えば高校生なんかは学割だとかってあるかと思うんですけど、高齢者・障害者おでかけパス、こどもフリーパスというのは、これはフリーのですね。そういう形で糸魚川バスの、いわゆる乗車券の種類辺りが、もし体系で結構です、あったら教えていただきたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

分かる範囲でお答えいたします。

普通の、まずお話にあったような通常の料金の形態、ほかには大人用の定期券、あと通学に特化したような通学の定期券、あと、それ以外にも夏休みとか無駄にならないような学期別の定期券、あとバスカードですとか、それに今度、私どもは直接は所管しておらんのですが、高齢者・障害者のおでかけパスですとか、こどものフリーパスというような様々な制度がございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いま一度聞きますけど、フリーパスという制度は、今の糸魚川バスの中にあるんでしょうか。逆に言うと、例えば半年間もうフリーパスでというような。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まず、子供、小学生、中学生は、6か月間のフリーパスという制度がございます。これに対しては糸魚川バスの商品ではありますが、市のほうは、そこに対して一定金額の負担をしております。同様に福祉事務所のほうでも所管しております高齢者・障害者おでかけパス、これは6か月だけではなくて、1か月というような販売方法もございまして、これも糸魚川バスのそういうパスに対して一定金額の市のほうの負担をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

一般向けのフリーパスというのはないんですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

失礼いたしました。中学生までのお子さん、あと高齢者・障害者ということで、一般向けのものはございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ここに資料あるんですけど、こどもフリーパス6か月が、小学生が1,500円、中学生が3,000円、1か月で小学生510円、中学生1,030円と。実際のところは、小学校6か月が2,570円のところ、市から補助が1,070円と。中学生は6か月の5,140円のところ、市が2,140円と。この制度のためにこれ、逆に言うと作っていただいたフリーパスというふうに理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

車の運転できないお子様ですとか高齢者、あと体に障害をお持ちの方のお出かけ支援として、糸魚川市のほうで、糸魚川市と一緒に設定した制度でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

こどもフリーパスについて、付け加えさせていただきます。

こどもフリーパスについては、遠距離通学補助対象外の児童生徒に対しまして、近隣の児童生徒数、あるいは通学路の状況等によって、通学路線バス利用を希望する者に対して負担の軽減を図ることや、併せて、先ほどお話ありましたが、公共交通機関の利用促進というふうなことで、そういった目的を基に始まったものです。23年度から導入いたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

こどもフリーパスについてちょっとお伺いしますけど、これあれですか、地域的にはどんな、先ほど言ったように東中学というんですけど、逆に言うと事務報告書には延べかなんかで載ってるんですけど、その実際の人数辺りはどうなのか、そこら辺もう一度教えていただければと。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

先ほど議員のほうからもお話がありましたけれども、こどもフリーパスは6か月というふうな形で購入いたしております。つまり、1人のお子さんが1か年利用するとなりますと、2回利用するということになりますので、延べ数で言うと2人とカウントさせていただいております。実人数のほうなんですけれども、令和元年の利用者を申し上げますと、全体では188名、一番多い糸魚川東中学校区で88名となっております。

なお、参考までに糸魚川中学校区57名、それから能生中学校区では19名というふうな形になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

私は、全線共通のフリーパスを高校生に拡大していただきたいというふうに考えてます。私たちの年代は、中学を卒業すると高校に進学せずに働きに出る人が約半数までいました。いたかいかんかですけどいました。その上片や同年代で、片や税金を納める。それを使って逆に高校へ通う方は補助してもらおうというのは不平等があったんだと思います。

しかし、現在、実際には99%が高校に進学しております。むしろ高校は、準義務教育化しているというふうに思っております。国も私立の高校に補助を出すのも、この考え方からだろうというふうに思っています。このことを考えると高校生にも拡大してはいいのではないかと。

糸魚川市の事業の中に大学などに通うのに、糸魚川市から新幹線を利用しての事業があります。交通費の補助ですね。この事業の目的は理解してるし、理解できるんですけど、今の義務教育化した高校への交通費と平等性を考えたとき、さてどちらが優先されるかと思うと、私は高校への交通費に支援するほうが平等ではないかというふうに考えております。その点を考えていただければと思います。

私は、高校生のフリーパスをしたときに、利点は以下のことを考えております。

まず、個々のお母さん方や家族が学校まで送り迎えをしなくてよくなります。家族が最も忙しい時間に送ることは大変なことで、時間が持てるようになるかと思えます。

2番目に、マイカーを使用することを減らすことで、個別の車の運転がなくなり、僅かではありますが、地球温暖化を防止できるのかなというふうにも考えています。

3番目に、高校生のコミュニケーション能力の向上や出会いの場になるんじゃないかと思えます。デジタル化の現代、ますますコミュニケーションが取れない、取りにくい時代です。私もデンカで、会社で勤めたときに、私見が入りますけど、やはり大人とのコミュニケーションとかが実に下手というふうに感じております。それぞれの学校以外の人たちとの出会いばかりでなく、一般の方、他校との、会うことによるコミュニケーション能力が向上につながり、また、男女の出会いもそこでできて、将来、糸魚川で結婚ということも考えていただけるんじゃないかというふうにも思ってます。

次に、駅北のにぎわい広場へ、高校生の交流の場でも、実際の今キターレは、糸魚川小学校範囲内の方しか利用されないような気がしてなりません。大人は車で行くことができますが、高校生は費用がかかるため、旧糸魚川市外からは不平の声もあります。

5番目、休日に高校生が市内の名所や旧跡などへ出かけ、市の歴史や市のいいところを見る機会も増え、糸魚川愛にもつながるんじゃないかというふうにも考えてます。

6番目、現在、糸魚川市外の高校に通う高校生が増加、高校生の親に聞くと、この制度があれば糸魚川の高校に通わせたいという親も現実にあります。この制度を高校生まで拡大することで一石二鳥ならず、何鳥もの効果があるように考えます。ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。

市長、もし答弁があったら、感想でもお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今ほど山本議員からいろいろなメリットということでお聞きいたしました。実際、私も現場で確認しますと保護者の送迎が多いという実態もあると思います。そういった部分を公共交通に振り替えて、公共交通の利用促進を図るといふ部分も理解できるところです。

また、高校の魅力化を進めてる中で、高校生の支援という観点でもお話を頂きました。そういったことを含めて、財政負担が課題というふうに申し上げましたが、検討はさせていただきたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

次に、3番目の猛暑の子供たちということで、先ほど答弁いただきました。本当に日頃の教育関係、感謝を申し上げたいと思います。

最近の報道では、猛暑による熱中症対策として、以前は室温を28度にしなければという一点張りのような気がしましたが、最近の報道では26度でもというような言葉が出るぐらいの報道に変わりつつあるというふうに思っています。最近の報道でも猛暑による、ないと思います。

実は、ある小学校の校長先生とのお話の中で、通学時、いわゆる通ってくる時、汗をかき、学校に来る。そのときは子供たちがいらいらして、ちょっとしたことでもいさかきがあったところ。ところがエアコンを入れることによって、さっと汗が引き、いわゆる授業への集中力もすぐというふうな話を聞きました。

まだまだ残暑が続く中、一定の基準は必要と思いますが、先ほどの答弁のように子供たちの状況を判断して、有効に活用していただきたいというふうに考えます。現在、各教室には完備されましたが、まだまだ音楽室など、そちらの教室もないところもあります。子供たちは、この糸魚川市にとって宝です。ぜひともそちらのほうの設置も早めに検討をお願いしたいというふうに思います。

最後に、休み期間中の公共施設の運営について、伺います。

先ほど4月からの利用人数、8月は3,792人ということでした。実際、私もはびねすへ運動しにいけますので、本当に人気があるんだなというふうに感じております。そのときに、例えば夏休み期間中にほかの、例えば水族館なんかは、やはりその期間休まずに営業してると思うんですよ。そう考えたときに、やはりこのプールも夏休み期間中は休まずに営業ということを民間なら考えることだと思いますけど、その点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

確かにご提案のように、夏休みの暑い時期だけでもフィットネス、それからプールを子供たちに

開放して、利用していただくというのは、出来得ればそうしたいというふうに考えておりますけども、先ほど市長から答弁いただきましたように、その休みの期間を使いまして、例えばメンテナンスでありますとか、お風呂の水の交換だとか、そういうものに時間を使っておりまして、そこら辺が何とかできて、その上でスタッフが確保できるようであれば可能なんだというふうに考えております。したがって、新年度に向けて指定管理者とも協議をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

同じように、もしこのプールが民間だったらいろいろ考えると思いますので、ぜひともそうしていただきたいというふうに思います。ほかの公共施設で図書館だとかほかのあれですけど、それもやはり同じようなことで、今、小学生、中学生がタブレットというふうなことがあります。家庭によっては通信環境がないということも問題視されてます。そうなったときに、やはり図書館なんかは有効な場所ですので、これもやはり夏休みに限らず、春休み、冬休みなんかも開設ということを検討していただきたいと思いますけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

公民館、図書館等、今年の夏休み等も子供たちが積極的に利用している様子がうかがわれました。公民館においては、寺子屋といったような形で、地域住民が一生懸命子供たちに勉強を教える姿、そういったものが大変ありがたく目に映っておりました。こうした公民館や図書館の利用につきましても、利用状況並びに要望等に応じまして、開館等、関係する課と相談しながら、協議しながら検討してまいりたいというふうに考えております。

また、インターネット環境については、公民館、図書館だけでなく、学校等の利用の、インターネット環境の利用についても検討いたしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

プールの件にちょっと戻りますけど、例えば冬休みというか、冬の平日はそれほど利用客がないと思うんですね。そこら辺りは、例えば週に2日間休んでもいいんじゃないか。先ほどの答弁の中にメンテナンスということもありますんで、夏休み中全てということではなくても、いわゆる検討する大きな材料だというふうに思いますので、ぜひとも検討して、来年には開園というか、できるようにお願いしたいと思います。

これをもって質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

1時45分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時40分 休憩〉

〈午後1時45分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。〔10番 保坂 悟君登壇〕

○10番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、動物愛護の取組について。

(1) 多頭飼育による生活崩壊の防止策について。

- ① 多頭飼育に陥りやすい傾向や行動について、周知を行っているか。
- ② 生活崩壊の予兆や不安がある場合、市の相談窓口はあるか。
- ③ 生活崩壊があった場合、動物を預かる施設は確保されているか。
- ④ 生活崩壊後の飼い主への指導や支援は、どのように行うか。

(2) 動物用マイクロチップ装着の促進について。

ペットの迷子や脱走があったときや、災害時にペットが行方不明になったときの対策として、マイクロチップがある。そこで、マイクロチップ装着費補助事業の創設と、この事業利用者から飼い猫等の基礎情報を提供してもらう考えはあるか。

(3) 災害時の同行避難の受入れについて。

- ① 避難所収容時に駆虫薬の十分な備蓄はあるか。
- ② 動物用マイクロチップリーダーは、用意してあるか。
- ③ 同行避難に関する情報を安心メールで配信する考えはあるか。

2、市施設の点検と改修について。

(1) 美山公園にある貯水池の排水施設について。

経年劣化により排水溝本体の裏側に水の浸入が見られる。大雨や豪雨のときに排水溝自体

が崩れるおそれがある。その対応を考えているか。

(2) 通学路や高齢者がよく利用する道路において、側溝と用水路のガードレールやガードパイプの点検と修繕について。

① 側溝の深さや傾斜による段差や、側溝の規格違いによる横ずれ段差などによる流れの不備のチェックは行っているか。

② 小さな子供の足が入るような側溝の蓋の口について、簡易な蓋をすべきと考える。地域や学校で総点検を行い、必要に応じて蓋をする考えはあるか。

(3) 地区から市への要望書の書式について。

地区にとってメリットや貢献度のない施設については、市自らが地区に迷惑をかけないように心がけるべきであり、地区要望書に場所、理由、写真の添付を求める書式は本末転倒していると考え。施設の性格によっては指摘項目のみでよいと思うが、改める考えはあるか。

3、コロナ禍における子育て支援について。

(1) 新生児特別定額給付金（1人10万円）事業の実施について。

国から、第2次補正予算で増額した地方創生臨時交付金について、自治体が独自で行う新生児への給付金に活用できる旨の通知があった。コロナ禍で子育てする保護者に給付する考えはあるか。

(2) ひとり親世帯でコロナ感染した場合の支援について。

① 働くことができなくなり所得を得られない場合の支援はあるか。

② 感染していない子供の面倒を見る支援はあるか。

③ 感染した保護者の身の回りの生活支援はあるか。

(3) 子供の定期予防接種の状況について。

コロナ禍により医療機関に行くことをためらう保護者が3割程度いるという報道が以前あったが、市内の予防接種率はどうなっているか。

(4) コロナ禍におけるインフルエンザ対策の強化について。

① 子供及び妊婦のインフルエンザ予防接種費用助成について、コロナ禍のため収束するまで全額無償化で対応する考えはあるか。

② 市内全体の蔓延防止のため高齢者の接種費用補助があるが、市独自に接種を促すため、補助対象や補助額を拡充する考えはあるか。

4、「子育てするなら糸魚川」と呼ばれる子供のためのまちづくりについて。

市は、「子ども一貫教育基本計画」を作るなど、子ども教育や子育てに力を入れている。後は成果を整理して情報発信を行うだけである。

(1) 市内の子どもスキー教室の成果を分析しているか。

(2) 中学生海外派遣事業における、英語検定とジオパーク検定の成果を分析しているか。また、事業参加者の進路調査を行っているか。

(3) キャリア教育における中学生職場体験事業と、高校生を核とした地域人材育成事業の成果を分析しているか。

(4) 陰山メソッドにおける1年間の学習内容の把握とスピードを意識した学習により、分からないところをすぐに埋める思考や学習の集中力に変化は見られるか。

(5) 通年で「興味を育てる」遊び場（体験する場）の提供について。

- ① 博物館・図書館等の公共施設における成果を分析しているか。
- ② キターレ・道の駅等の商業施設における成果を分析しているか。
- ③ ジオパル・フォッサマグナパーク・美山公園や、須沢臨海公園等の各公園における成果を分析しているか。
- ④ 市の宿泊施設やキャンプ場における成果を分析しているか。

5、デジタル社会の推進について。

デジタル技術は手段であり、「人間中心のデジタル化」を加速すべきである。高齢者、障害者、生活困窮者など「情報弱者」になりやすい方たちへのサポート体制の整備も不可欠であり、SDGs同様に「誰一人取り残されないデジタル化」が大事である。また、新型コロナウイルス感染症による人と人の分断を「デジタル技術」で克服することが求められている。

- (1) マイナンバーカードのメリット向上策について、考えはあるか。
- (2) 自治体間の行政システムの統合について、考えはあるか。
- (3) 行政サービスのロボット化に向けた準備は行っているか。
- (4) 市民一人一人のデジタル化の促進について。
スマートフォンやタブレットの情報弱者への普及策を考えているか。
- (5) 産官学連携による市独自のアプリ開発とその導入について。
 - ① デマンド式タクシーやバスの乗車予約や鉄道切符等の購入ができる公共交通機関の利用のアプリを考えているか。
 - ② 医療機関で共有できる電子カルテアプリを考えているか。
 - ③ 移動販売やデリバリータクシーの注文アプリを考えているか。
 - ④ 食品ロス削減（フードシェア）アプリの導入を考えているか。

6、市の観光・レジャー施設等の成果と分析について。

(1) 「事務報告書」の書式改善について。

事務報告書では単価やその年の気象・政治・経済などの背景の記載がなく、利用者数と使用料の記載があっても前年対比する数字がないものなど、所管課や事業により資料の作り方がばらばらである。

そこで、比較できるように書式を統一する考えはあるか。

(2) 「事業目的達成度報告書」の作成について。

「決算書」は予算の執行状況、「事務報告書」は事業概要と利用状況である。目標に向かっている取組の程度が見えない。そこで、①事業目的のための取組経過、②年度背景、③費用に対する成果の分析と評価の3項目で報告書を作る考えはあるか。

(3) 指定管理事業や委託事業の評価について。

- ① 暖冬少雪やコロナ禍により「リスク分担」が注目されている。指定管理者や委託団体に対する営業評価は、どのように行うのか。
- ② スキー場や宿泊施設に見られる「コスト」と「まちづくり戦略」の検証は、どのように行うか。また、その市民周知を行う考えはあるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、広報などで周知しており、生活崩壊の様々なケースには、環境生活課が窓口となって県や関係機関と連携し、対応しております。

2 点目につきましては、現在のところ考えておりません。

3 点目の 1 つ目につきましては、避難所においては飼い主が準備することを基本といたしております。

2 つ目につきましては、県から借用できることとなっております。

3 つ目につきましては、引き続き同行避難についての周知を行ってまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、排水路の構造や現地の状況から、現時点では崩壊等の危険性は少ないものと考えておりますが、必要に応じて修繕を行ってまいります。

2 点目の 1 つ目につきましては、道路パトロール等により不具合を確認した場合は、速やかに補修するように努めております。

2 つ目につきましては、道路パトロールを実施するとともに地域や学校においても通学路等に係る危険箇所の点検を行っており、必要な対応をいたしております。

3 点目につきましては、原則として要望箇所の位置図と写真の添付をお願いいたしておりますが、施設の様子が分かる場合など、内容によっては柔軟に対応してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、現時点で給付の予定はありません。

2 点目の 1 つ目につきましては、緊急小口資金の貸付などセーフティネットの活用により支援してまいります。

2 つ目につきましては、親族等による支援が受けられない場合は、児童相談所での保護も可能であります。

3 つ目につきましては、感染時には入院することとなっております。

3 点目につきましては、昨年度と比較して接種率は上昇いたしております。

4 点目につきましては、高齢者などの必要な方にインフルエンザの接種を呼びかけてまいります。

4 番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

5 番目の 1 点目につきましては、来年 3 月から健康保険証として利用が可能となりますが、今後、カードを利用した様々な取組を検討してまいります。

2 点目につきましては、現在、上越市、妙高市とともに財務会計システムの共同化を目指して定期的に協議を行っております。

3 点目につきましては、昨年度より R P A を試験導入いたしており、今年度も引き続き費用対効果も踏まえて導入を進めてまいります。

4 点目につきましては、地区公民館等において市民向けのパソコンの設置、W i - F i 環境の整備を行うとともに講習会等を行ってまいります。

5 点目につきましては、費用対効果も含め検討してまいります。

6 番目の 1 点目につきましては、掲載する項目や数値の比較をしたほうが分かりやすいものについては、書式を含め検討してまいります。

2 点目につきましては、毎年、事務事業評価を実施いたしております。

3 点目につきましては、主要な指定管理施設は、部外委員を含む指定管理者選定委員会による評価を行っており、評価結果を市のホームページにおいて公開いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

保坂議員の 4 番目のご質問にお答えいたします。

各事業の内容に応じ、事業の評価を行っており、子育てしやすい町として広報や SNS 等を活用し、さらなる情報発信に努めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10 番（保坂 悟君）

順番を変えてよろしくお願いいたします。

まず、大きな 3 番、コロナ禍における子育て支援の拡充についてであります。

まず、(1) 番の新生児のところでございます。1 人 10 万円の特別定額給付金は、公明党の山口代表が安倍首相に直談判して実現しておりますが、基準日となる 4 月 27 日の翌日以降に生まれた人には支給されておられません。本会議初日の行政報告で、市長は、特別定額給付金が 99.8% で 41 億 7,700 万円の給付がされており、ほぼ市民全員に行き渡っていると報告がされました。つまり、市民ニーズがあり、特段トラブルもなく申請していることを考えると、新生児に対しての給付もほぼ 100% が期待できます。

また、給付金は、結果的に市内の経済への反映にもなりますし、単純にコロナ対策でマスクをはじめ、消毒や除菌シートなど消耗品、また、非接触型体温計などの健康管理に必要な機器で出費がかさんでいるかと思われます。

しかし、全国の自治体では、コロナ禍の感染に注意しながらの出産と育児を行う保護者に祝いと激励の意味を込めて給付しているところがたくさんございます。

また、少子高齢社会の中、100年に一度の災害の中で産声を上げてくれたことに感謝し、今年度予算化した行事やイベントで中止になっている減額する費用や、また議会費の市外調査等、議会交流費などの減額分をこういった新生児に回してもらい、そういう意味でもぜひ取組を検討していただきたいんですが、再度ご回答いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご質問にお答えいたします。

新生児への定額給付金につきましては、県内でも独自で各市町村が給付しているということは承知しております。糸魚川市におきましても、子ども誕生お祝い事業で2万4,000円の商品券を贈呈しているところでありまして、また、糸魚川総合病院で分娩された方には5万円の奨励金を交付するなど、子供の出生に関しては独自の支援をしております。

臨時交付金を財源として、保育園、学校での蛇口の自動化なりトイレの洋式化など、まずは子供たちの感染防止対策というところを講じたいということから、今議会に補正予算をお願いしているところでありまして、今ほどの市長答弁となったものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

もう話し合われて結論が定まっているような感じなので、これ以上言ってもあれなのかなと思いますが、ただ、今後ほかの自治体からも、またこういった取組が出てくる可能性もございますので、少したわみを持って、状況を見ていただければなと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

臨時交付金を財源とするかどうかは別としまして、先ほど議員おっしゃるとおり、4月27日までのお子さんが給付金を受けられてというような不公平感もあることは、十分承知しております。そういったところを踏まえて、子ども誕生お祝い事業の拡充ですとかそういったところを踏まえまして、広く検討させていただきたいなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

トータル的に金額がそれ相当のものになれば、それはそれでまた理由というか納得ができるかと思しますので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

次に、（2）番のひとり親世帯のコロナに感染した場合の支援であります。①番で、感染した場合、ひとり親という点で経済的支援金が給付されるものがあるのか、また、給付に向けて迅速性というか手続が簡素化されているか、そういうことを聞きたいんですけど、その辺どうなっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申し訳ございません。給付金につきましては、今のところ感染された場合の給付金というのは制度はございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ごめんなさい。給付金制度がないのは、セーフティネットで迅速な対応ができるような形を何とかちょっと説明していただきたいということで、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

セーフティネットにつきましては、社会福祉協議会が実施しております。ご相談があつてから速やかに社会福祉協議会と連携しまして、対応していきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

相談されれば、すぐに対応できるというふうな認識で受け止めました。

次に、感染していない子供、要は親が感染して、子供が感染していない場合、児童相談所と言われるんですけども、具体的には、例えば学校に通うであるとかそういったところを面倒まで見てくれるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

保護者が感染して、子供さんの面倒を誰が見るのかというところでありますけれども、一義的には親族なりのご協力を頂くというところが一義であると思っています。ただ、どなたも面倒を見ることができないというご相談があつた場合には、私ども児童相談所に保護として預けるというところも可能性はございます。

ただ、小学校、学校の、保護になった場合は学校はやはりお休みになってしまいますので、そういったところも十分勘案しながら、ご相談に乗っていききたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

すみません。要は通ってる学校の子供の親が感染した場合は、もう即学校が休みというふうに理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申し訳ございません。私のちょっと説明が不足しております。児童相談所は、上越にございます。保護するとなると、やはり上越に保護になってしまいますので、やはり市内のお子さんは、その保護所で過ごすこととなりますので、保護者が感染したので学校を休みになるというわけではなく、物理的な問題で、距離的な問題でどうしても通えなくなりますので、そういったところは慎重に児童相談所と連携して、また、相談に応じていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

じゃあ身寄りがなくて親が感染した場合には、場合によっては上越に行く。そのときにはもう学校は物理的に通えないので、そこで面倒を見てもらうという形なんですね、分かりました。

あと3番目、感染した保護者が、結局、自分が感染したためにいろいろ子供の面倒が見られなくなるもんだから、その辺の経済的支援とか生活支援がどうなるのかなと思った。じゃあそれも児童相談所に対応するという認識でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

いろんなケースがあると思います。先ほど申しましたとおり、やはりご親族なりの力がお借りできるようであれば、そちらのほうにお願いしたいというふうに思ってますし、児童相談所というのは最終的なところだと思っていますので、やはりお一人お一人の状況をお聞きしながら対応していかなければいけないというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

何でこんな質問をしたかというのは、やっぱり感染するまでは皆さんピリピリしているんですけども、感染後の様子というのは、皆さん事情によってばらばらですね。どういった対応が取られていくのかって、なかなか分かりにくいものですから、今相談されれば迅速に対応してるといことなんで、ケース・バイ・ケースに合わせて、その家族が心配しないような対応をぜひ行っていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、3番目、子供の予防接種の関係ですけども、糸魚川がそうだとことじゃないんですが、以前も聞いたかと思うんですが、今のところ、じゃあ子供たちの定期予防接種は順調に接種されると、問題ないということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど答弁で、接種率は上昇していると申し上げました。昨年4月から7月の接種率が67.2%でありました。本年4月から7月の接種率は75.5%になっています。この原因としましては、要因としましては、国のほうも子供の予防接種と乳幼児検診は遅らせないでくださいというようなアナウンスをしております。また、そのアナウンスに合わせて、市内の医療機関の方々も、機会あるたびに保護者のほうに周知していただいている賜物といいますか、そういったところかなというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

むしろ数字が上がってるということは喜ばしいことかと思しますので、引き続き対応をお願いいたします。

次に、(4)番のコロナ禍におけるインフルエンザの対策でございます。これもいろんな自治体の取組もあるんですが、特に今回、インフルエンザ対策についてですが、季節性インフルエンザはコロナ感染症に症状が似ており、紛らわしいと言われております。この秋以降、早めに接種するように国もワクチンの確保に動き出していると。そこで、市内のインフルエンザ蔓延防止の徹底のため思い切った対応を行う考えを聞いてるんですけども、これもほかの自治体かなり力を入れて市民全体を対象にしたりとか、糸魚川市は、たまたま子供と妊婦には半額助成されて、進んでると思うんですけども、そういった同じようなサービスをしている自治体とかも出てきてますんで、また、もう一段、糸魚川市もこういったインフルエンザに力を入れていただいて、要は、狙いは医療機関の混乱を防ぐというところが主眼なんですけども、そういったところで再度、また医師会等とまた相談されて、検討していただきたいなどは思うんですが、その辺ご回答いただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

国で確保できるインフルエンザのワクチン量、これには限度がありまして、国民の約50%程度、全員が接種できるワクチンの量というのは、実はありません。このために高齢者、それから重症化する基礎疾患のある方、こういう方はまず接種が必要だということで優先的に確実に接種すると。このことが最も重要であるというふうに認識しております。したがって、補助対象を拡大した場合、必要とする方の接種、これが妨げられる心配など、こういうことが考えられますので、今のところ補助対象の拡大というのはいりません。

しかし、必要とされる方への優先的接種は、今後も呼びかけていきたいというふうに考えておりますので、既存対象者への補助額の拡充、これは今後の検討課題というふうにさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ワクチンが50%しか確保できないということなんですけど、ただ、私の認識だと今回、糸魚川市もいろんな補助対象をして取り組んでこられてるんですけども、接種率も大体50%行ってないんじゃないかなと思って。今まで糸魚川市の取組として、100%近い接種率というふうになってないかと思うんですが、その辺の数字どんなもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

まず、定期接種として、高齢者でありますとか重症化する基礎疾患を持っておられる方、こういう方の予防接種については、たしか64.5%というふうに理解しております。県の平均よりも上回っております。

それから、子供だとか妊婦の関係でございますが、これについては60%ということに理解しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

もともとの質問に書いてあるとおり、やっぱりインフルエンザの接種を促すという目的でありますので、私は効果があるというふうに思いますし、これをしたからといって今100%ワクチンが使い切るのかといたら、私はそうではないと思っております。

ただ、今回、コロナ禍において医療機関を守るため、また、その重篤化を防ぐため、症状が似ることによってインフルエンザなのにコロナ対応しなきゃいけないということを考えたときに、脆

弱な医療体制の中で私は逆に重要だと思ってるんですけども、多分、意見の相違なのかもしれませんが、でも様子を見ながらほかの自治体と比べたときに、やっぱり糸魚川劣ってるということにならないようにぜひ配慮いただきたいんですけど、その検討の余地だけは残していただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

決して、それを検討しないということではありません。今ほど説明させていただきましたのは、補助対象の拡大、全ての市民に対してというのは、ちょっと専門家のお話を聞いても難しいのかなというふうに考えておりますが、必要な人に必要なだけ確実に行き渡る、優先的に行き渡るといような取組、例えば補助額の増額だとか、そういうものについては、今後の検討とさせていただきますということでありませう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ぜひここは重要な場所なんで、そういうふうに捉えていただければありがたいなと思います。ぜひ対応をよろしくお願いいたします。

次に、番号大きい4番、「子育てするなら糸魚川」と呼ばれる子供たちのためのまちづくりについてであります。ちょっと時間がないんで、本当はもうちょっと詳しく聞きたかったんですけども、1番の雪国を生かす市内スキー教室の成果を分析しているかということなんですけども、糸魚川市のスキー場では、スキー教室を、スキー場のスキー学校ですか、やっていただいて、すごいと思うのは、やっぱりバスの送迎つきであつたりとか、料金が1万6,000円ぐらいで、回数が週1回で6回行つうもので、あと市からもリフト券で1日券500円とか半日券300円ということで、言葉悪いんですけども、子供をそこに預けてしまえばスキーができるようになるという、私はすごく画期的な取組だと思ってるんですね。ぜひ広報等で、おしらせばんかな、周知して、非常にいいことなんで、これも本当は事業化を暖冬少雪だ言いつつも、ぜひここは続けてもらいたいですし、私、糸魚川の子供たち、やっぱりスキーができる1つのステータスというか、そういうものを育む機会はずっと守ってほしいと思ってるんですけど、この事業をぜひ強力に推進していただきたいんですけども、その辺いかなあもんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

スキー教室につきましては、おっしゃったとおり市でやっているもののほかにスキー連盟ですとかというところで実施されております。本市としましても、この事業につきましては、冬期間の小

学生、中学生等の居場所ですとか、それから当然スキーに親しむということも考えておりますので、リフトの助成等につきましては、今後とも検討して、継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ちょっと表現が難しいんですけども、機会があればスキーが滑れるようになった子、数字も何人通ってどのくらい上達したかみたいなものも何か紹介して、もっとPRをぜひしていただきたいなと思います。

次に、中学生海外派遣事業の件でございます。これも糸魚川市の海外派遣事業の参加資格に英語検定4級以上だったかと思うんですけども4級以上と、あとジオパーク検定を受けていなくちゃいけないという資格条件がございます。私このタイアップ、市の職員のアイデアでタイアップをして、英語検定とジオパーク検定が毎年、定期的に受験されてるといふ、この成果を何とかこれも数値化してアピールしてほしいなと思うんですけども、過去のデータみたいなものというのは一覧で見られるような状態になってるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

本事業の成果につきまして、数値的なものについては現在まとめているところではありません。この成果については、参加者がまとめた報告書、あるいは参加者がその後に行う発表会等での報告、そういったものを基に成果を分析しているところです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

私、今の成果報告だともったいないなと思っております。やっぱり英語検定の受験率であるとか、受験合格者数であるとか、ジオパーク検定につきましても上のほうに、達人でしたか一番上が、目立つ子供たちが出てくるのも期待してますし、そういった数値的な報告と、あともう一つ、海外派遣事業に参加した子供たちの進路についての追跡調査というのもぜひやっていただいて、全部が全部ご協力いただけないかもしれませんが、やっぱり海外派遣の経験を基にこういう職種に就いたとか、こういう興味を持ったであるとか、そういったPRも、私この事業には重要なポイントがあると思ってるんですね。だから、そういった紹介もしていただきたい。

なぜ今回この質問をしたかという、今回の香港が政治的にいろんな混乱を招いておって、なかなか今年度も行けなかったわけですし、今後もどうなるか分かりません。

ただ、ありがたいのはデジタル化ということで、いろんな世界の国々とのリモートでのジオパークの推進を図ったりとかという、そういう何ていうのか入り口を、この事業は担ってきたと思ってらるんですね。だから、そういった意味でいろんな可能性を秘めた事業であるので、さっきも言った英語検定であるとかジオパーク検定も、リモートの会議であるとか、いろんなイベントであるとかということも含めて、この事業をぜひ力強く推進し、またそういう成果についてもいろんな角度の成果というものもやっぱりPRとしてやっていただきたいんですけど、その辺の考えいかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

先ほどお話ししたとおり数値的なものについては取っておりませんが、参加した子供たちに共通していることは、英語のコミュニケーションの自らの未熟さを痛感し、さらにレベルアップしたいというふう述べているところです。帰国後、さらにまた英語検定に再チャレンジするというふうな生徒も見られます。

また、卒業後の進路でございますけれども、こちらのほうも参加者の進路について調査してるわけではないんですけれども、進路を決める際にもやはり海外派遣での経験が影響しているものと捉えております。例えば現地学生との交流などから、将来的に留学を目指しているというふう述べている者、あるいは海上巡検というのがあるんですけれども、そこでの感動を基に今船員を目指して高校に通っているというふうな子供もおります。以上、紹介です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えいたします。

私もやはり議員ご指摘のとおり、どのような経過をたどっておられるかなというのを追跡したいという気持ちでおったわけではありますが、個人情報の保護という形の中で、なかなかそれがうまくいってないところがございます。いろんな仕事の中であったり、また、いろんな行動の中でお聞きしているのは、私も海外派遣で香港へ行ってきましたという人たちが結構おられたり、市の中の職員に当たってもそういった経験があるという話も時々出てきますので、決して方向性は悪くないなと。その辺の結果とか評価の仕方というのは、なかなか難しいんですが、やはり一番どのような経過の中で進めておられるようなものが明確になればいいんですが、なかなか見にくいのも今の現状でございます。そういったものをなるべく分かるようにしていきたいとは思っておりますので、情報提供はしっかりしていきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

市長、ありがとうございます。またそれ大事な事業だと思っておりますので、また、全員で見守って、いい事業にしていただければなと思っております。

次に、（3）番、キャリア教育について、中学生とか高校生の体験学習なんですけども、正直言いまして今デジタル社会がかなり進んできてまして、これまでになかった仕事が出てきたりとか、逆にこれまであった仕事がなくなってったりとかという、こういう社会背景の中で子供たちは進路を決めたり、自分が何が得意なのか不得意なのかといったところを今、学びの中で吸収しているんだろうと思うんですけども。逆に、大人たちもやっぱり変化に敏感にならなくちゃいけないという面もありまして、やっぱり生徒さんたちと企業の連携するような事業というのもどんどん手厚くしていって、お互いがいろんなものを吸収できるような場を糸魚川市として独自に展開してもらいたいんですが、一層のこういう事業への、ただ大人が自分の経験をただ教えるというだけじゃなくて、本当に何ていうのか話し合ったりとか、もっと今ある技術を違うことに転換できるんじゃないかとか、あと逆に子供たちのほうが、今いろんなデジタルの機器のことを知っていて、それをまた大人に教えてくれたりする場面もあるかと思うんですね。そういった場をやっぱり丁寧に事業展開というのをしてもらいたいんですけども、すごく抽象論で申し訳ないんですが、要は今やってることをどんどん拡充していくような、そういう事業展開をしていただきたいんですけど、その辺の考えいかなうものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

小中学校のキャリア教育については、先ほど別の議員さんの答弁のほうでも申しあげましたけれども、着実に進めております。特に中学校3年生の全国学力学習状況調査の中にあります地域への愛着、あるいは社会貢献意欲、こういったものが全国平均に比べて大変高くなっております。こうしたことは、キャリア教育の推進のある種成果というふうに捉えております。そういった意味で、やはり郷土愛と自己肯定感を高めるというふうなことが、キャリア教育の中でとても大事な基盤ではないかというふうに考えております。そういった基盤を踏まえまして、キャリア教育につきましましては、例えば今やっている中学校2年生の職場体験活動、こちらのほうを充実・進展させると同時に、今年度から3年生を対象にしたキャリア教育フェスティバルということで、市内の事業所と関係機関と、学校とが連携・協働で子供たちのキャリア形成のために取組を行っているというふうな計画でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

少し付け加えさせていただきますが、本年度はキャリアフェスティバルを行います。先ほど議員おっしゃったとおり、やはり子供は本物に触れるということが非常に大切だと思っております。出展

する企業の皆さんにも、やはり子供を子供扱いしないで接していただいて、企業も子供から学び取るというようなところを重点的に行っていきたいという今計画であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

ここはちょっと提案なので、質問とはちょっと趣旨が違うんで聞いてもらいたんですけども、平成25年の12月定例会で建設産業常任委員会の委員長報告で、富山県の南砺市のアニメによる観光PRの手法というものを視察して、調査報告をしております。私自身も平成25年に海洋高校の産学官連携事業でアニメを導入したらどうかという提案を議会にさせてもらっております。そのときも妖怪の猫のアニメがあって、妖怪ウォッチですか、そういったものとかポケモンGoだとか、あとちょっとアニメとは違うんですけども、等身大ガンダムのシンボルを持ってこれないかとか、そういう話したんですけども。何が言いたいかというと今日、田原議員のほうかもアニメを活用して高校生にPRということがあったんですけども、逆に子供たちのほうがゲームとかアニメとかユーチューバーだとか、いろんなことを知ってまして、地域にある、例えばセメント製造、石の加工、能水商店、カニ漁師、のどぐろ養殖、越の丸茄子、酒蔵、地元杉、大糸線、えちごトキめき鉄道、観光施設等々、こういったものを子供たちと大人が一緒になってPRできるものを作ったりとか、新しい商品開発をしていくような、いわゆるマルチメディアという言い方をするんですけども、そういったものも大人の発想じゃなくて、これからを担う子供たちの発想を取り入れたそういった産業おこしとかPRの展開とかというのを、私系魚川だと今の状況だとできるような気がしてまして、ぜひそういった取組を体験学習の中で織り交ぜることができればなと思ってるんですけども、そういったもし機会があればぜひ展開してもらいたいと思うんですけども、その辺考え方としてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど私申し上げたとおり、子供を子供扱いしないで企業もやはりしっかり子供から学ぶという意識というのは大切だと思います。

ただ、昨日、白嶺高校の学習もありましたけれども、建設業の方々から白嶺高校が実地で学んでいましたけれども、非常にいい学びだというふうに思っています。議員おっしゃるとおりお互いが学びあって、それを1つの製品なり1つの成果につなげていくというのは大事だというふうに思っていますので、今後もそういった意識で取り組みたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

続きまして、（5）番の通年で興味を育てる遊び場の提供についてということをお聞きさせていただきます。

時間がないので結論から言いますが、糸魚川市は博物館でフォッサマグナミュージアム、漫画の「宝石の国」とのコラボレーションをして、非常にヒットしているんですけども、その中でもアンタラクチサイト作りなんて非常に評判がよかったと思うんですけども、あと公民館でもいろんな様々な習い事、教室もしてますし、特に学校でいえば根知小学校の防災キャンプ、私はすごく非常にいい取組だなと。

ただ、糸魚川市でちょっと私、公共施設で不足してるなと思っているのが、やっぱり子供図書館といえますか、子供に特化した、子供が自由に学べる空間の提供というのが少し、学校図書館とまた違うんですね。やっぱりそこには人がいて、いろんなアドバイスをしてくれる専門の空間というか、そういった子供図書館の配置が必要かなと思うんですが、子供図書館の中にも親も来て、カフェみたいな空間であるとか、自由に触りまくっていいような本だとか、仕掛け絵本であるとか、何かそういう特殊な価値を持った子供図書館というものを、大きくなくてもいいと思うんですけども、そういったものを設置していく考えというのが、今公共施設を整理していこうという中で逆行するんですけども、子供に特化した図書館みたいなものの考えというのは、当市の計画の中にはあるものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に糸魚川市は自然に恵まれております。そういう中にさらに恵まれておるのは、先ほどの前段のほうの一般質問の中にもありましたように、空いてる施設等もあるわけでありますので、そういったところをどのように子供たち、今の教育の中で生かしていくかということが、私は大切だと思っています。特に空いてる施設というのは、少子化の中において学校が空いてる。まだまだ使える学校が空いてるという状況があるわけでありますので、そういったところを教育で生かしたり、また、地域振興で生かしたり、糸魚川の活性化で生かしたのになっていければなと思ってるわけでありますので、やはりもっともっと踏み込んだ教育であったり、そういったところに使っていければな。特に学校というのは教育施設であるわけですので、やはりそういったところで使うのが一番だろうと思っています。

また、これももう一つ、私は大切だと思うのは、合併前から取り組んできておる旧1市2町の森林施設、キャンプ場みたいなものもあるわけであります。今は少し老朽化してる部分もあるかもしれませんが、手をかけることによって、そういったところで教育、また、いろいろ宿泊型の体験学習なんかでもできる可能性も結構あると思うんです。そういうのをやはりもう一度見直すことも大事ではないかな。また、そういうところで、さらに踏み込んだ子供の学習支援なんかもまた体験して、何でもできるのではないかなという今考えでありますので、全てができるわけではございませんにいたしましても、ある程度具体的なものを視野に入れてもいいのではないかと考えておる次第

であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

今のちょっと市長答弁と少し離れるかもしれませんが、キターレのほうに児童図書を配置させていただいて、今度、ジオパルのほうにもちょっとマニア向けといいますか、鉄道の図書を置いてみたり、それと町なかで、図書を活用していただける方法も今取り組み始めたところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

子供図書館と一言で言っても、皆さんいろんなイメージのされ方すると思うんですね。それでいいと思うんですよ。要は子供たちに、テーマは子供たちの興味が育てられるかどうか。いろんな自主的に物事を学んでいけるようにできるかどうかということなので、逆に言えばどんな形でもいいと思ってます。子供たちの興味を引く仕掛けというものさえ造ってくればいいかなと。

あともう一つは、交通機関といいますか通える範囲かどうか、または先ほどの質疑でありましたけど、バスを使っていける範囲なのかとか、そういったところの工夫が逆に必要なのかなと思っております。

もう一点、私、糸魚川市に欲しいなという施設がございまして、実現するかどうか分かりませんが、今駅北まちづくり計画の中でにぎわいの拠点整備というのが、まだ話が残ってまして、それはどんな施設になるのかちょっと分からないんですけども、簡単に言うと子供のミニコンベンションホールといいますか、もっと分かりやすく言うと子供たちの理科の実験室みたいな施設、そこに来れば体育館だとちょっと床の問題があってできなくて、下がコンクリートというかしっかりしたところでいろんな実験ができるとか、屋内でドローンを飛ばしてみるだとか、あと、いわゆるでんじろう先生でしたか、ああいう科学実験をその場で一緒にできるような空間というか、倉庫みたいな形でいいんですが、そういった子供のコンベンションホールというものも造っていただいて、要は天気が悪くても利用できるようなものという感覚で、米田市長の答弁で使ってない施設を使えば、そういったことも可能になるのかなと思ってのんですが、そういう大きな大きな理科の実験室の提供みたいなものというか、そういう空間をぜひ作っていただきたいんですけども、その辺そういった考え方がいかなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに子供の遊び場、居場所、特に天気が悪いというときには、非常にこの地というのは厳しいものがあると思うんですけども、やっぱり議員が今ご提案の理科センターとか学びの場というのは非常に大事だと思います。そこからやっぱり人材育成というのが始まってくるといふふうに思いますので、やっぱり学びの場を提供する、いわゆる探求心を起こさせる、そういったコンセプトでどこがいいのかも含めてなんですけども、いろんな要素を検討する中で、またそういったニーズは探らなきゃいけないといふふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

なぜこんな分かりづらい言い方をするかということ、さっきの仕事ではないんですけど、子供たちがユーチューバーになる体験するために、ユーチューバーになり切れる、後ろが緑色の背景あって、いろんな画像を複合的に撮ることがことのできる、そういうスタジオであるとか。あとラジコンでもいいんですけども、そういったものを中で練習できる。好きでプロになっていく人ばかりじゃなくて、いわゆるビギナーというか、さっきのスキーもそうなんですけど、ちょっとでも興味持ったことをやらせてあげる場、親が全部物事に精通してるわけじゃありませんから、やっぱり分かってる人にアドバイスをもらいながら習うということが、非常に子供にとって自身もつきますし、また興味が一步深まるんです。そういった場が、意外にありそうでないのかなというのが、見てて思うんですね。だから、パソコンに興味があったらパソコンもタブレットでもいいんですが、ただ単にゲームとかでやらせるんじゃなくて、やっぱりそこにサポーターみたいな人がいて、使い方であるとかちょっと工夫すると自分でもゲーム作れるんだよとか、今、駅北キターレさんでいろんな取組されてると思うんですが、あれを発展させて、できれば空き施設があれば糸魚川地域に4か所ぐらいそういうブースがあってもいいのかなと思ってるんですね。

ただ、まず一步として、駅周辺に、まず1か所そういったものを造ってもらって、そういう子供の興味を育てるといふ取組をぜひこの機会に頑張ってもらっていただければ、糸魚川市の教育水準というのも逆に上がっていくんじゃないかな。そういうふうな捉え方をしてるんですけども、その辺の考え方、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご提案の事柄につきましては、基本的なところで私も同感いたしております。糸魚川の子供たちにとって、経験がなくて成長していく部分が、結構都会に比べてあるのではないかな。都会は非常にいろんなものがあります。選ぶ事柄がたくさんある中で、やっぱり子供たちが興味を持ったものに触られて成長していく部分があるんですけど、地方の都市においては、やはり人口が少なかったり数が少なかったり経済的なところもあつたりもして、やはり関わらないで触らないで成長していくものが結構あるものが、我々感じておるわけでございまして、なるべくそういうことのない

ようにしていきたい。特に国際化にいたしましてもそんなことがあって、私ども取り組んで部分もあるわけでありますが、それだけではなくて、まだまだそういった機会、地域間格差というのまだ生じてる部分も感じる部分がございます。そんなところも考えながら、今、議員ご指摘のところについてやはりなるべくそういうことのないように取り組んでいきたい。場所については、どこがということは明言できませんが、そのところも頭に入れながら子育ての環境をしっかりと整えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

あと、最後お願いになるかと思うんですが、施設管理で公園、各種いろんな公園がございます。農村公園とかいろんな公園があるんですけども、③番のジオパル、美山、フォッサマグナになるかと思うんですが、いろんな公園があるんですが、結局、所管課による公園の造り方になっていまして、1回シャッフルして、さっきも言った子供たちの成長に寄与するという着眼点で、今ある公園をもっと特徴あるものにしていってもらいたい。お金かけろというんじゃないんです。既定路線で造った公園じゃなくて、もう一遍、今ある施設を子供にどうやったら興味持たせられるのか。地域にあるものを生かして何かさっき言った興味を育てるようなものができるんじゃないかという着眼点で、農林水産課だからとか建設産業の所管だからとか、そういうことじゃなくて、今ある公園をもう一遍見直して利活用できるような物の生かし方というのを再検討していただきたいんですが、そういった公園の利用方法を検討していただくことはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

たしか今、議員から言われた公園です。公園という定義を見ていきますと都市公園、行政の立場でいうと都市公園ですとか、農村公園とか児童遊園とか、いろんなやり方がある、各所管課の部署のやっぱりラインというのは出てきた。これは今まではそういった造りで、管理もそういった造り、運営もやっているのが現状だと思います。改めてもう一度、今、公共施設、今公園ということでターゲットを絞ってやられますが、改めて目的の、誰に向かって、誰が利用しやすいのか、誰のための、そういった視点でもう一度、施設の在り方、そういったものを点検しながら、改良できるものはどう改良すればいいのか、そういったところをいろんな皆さんの意見を聴きながら、ニーズに合ったものを検討していく必要があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

保坂議員。

○10番（保坂 悟君）

最後に、個性の強い公園をたくさん造っていただきたいと思います。

終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

14時55分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時45分 休憩〉

〈午後2時55分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の一般質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルス感染症対策について。

(1) 特別定額給付金について。

- ① 特別定額給付金について、給付者数、給付率はどうなっているか伺う。
- ② 特別定額給付金を申請しなかった人について、その理由の把握はされているか伺う。
- ③ 特別定額給付金のオンライン申請の状況については、どうであったか伺う。

(2) ひとり親世帯臨時特別給付金について。

- ① 令和2年6月分の児童扶養手当の受給者については、申請が不要で口座に振り込まれることになっているが、それ以外の対象者については申請が必要とされている。申請書による給付申請数及び追加申請数は、どのような状況か伺う。
- ② 申請書については、市や厚生労働省のホームページを見てもよく分からない。令和2年6月の手当受給者以外は申請し難くなっているように思えるが、いかがか。
- ③ 飲食業やサービス業等で働く、非正規のシングルマザーが、解雇や仕事の減少で窮地に陥っているという全国報道に幾度か接した。糸魚川市内での実態は、どのように捉えているか伺う。

(3) 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や自粛による市内への影響について。

- ① 売上げ減少や将来を危ぶんでの廃業等は、どうなっているか伺う。
- ② 失業者の増加、生活保護申請の増加といった傾向は、現れていないか伺う。
- ③ 雇用調整助成金、緊急雇用安定助成金の利用状況について伺う。
- ④ インフルエンザ流行時期が近づいてきた。新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行に備えた対策は、考えているか伺う。

(4) 新しい生活様式の具体策について。

「新しい生活様式」は、国が国民に求めるだけの5項目となっている。糸魚川市では感染者数が最低限に抑え込まれた状態ではあるが、国内の大都市圏や外国では収束はなかなか見えてこない。以下伺う。

- ① 視覚障害者や聴覚障害者にとっては、マスク着用によって声がかきこもり、また口元が見えず、言葉の判断がしにくくなる。表情も読めず、コミュニケーションが難しくなる。ましてや、人との間隔は最低1メートルと言われている。新しい生活様式を進めるに当たり、高齢者や障害者のコミュニケーション対策を考えているか伺う。
- ② 国連は、自然破壊や気候変動と新型コロナウイルス感染症の関係について警告している。気候変動による大規模災害の連続と新型コロナウイルス感染症等が連動しているとする、座して見ているわけにはいかない。SDGsの17の目標達成を喫緊の課題として取り組むべきと思うがいかがか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

佐藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、給付世帯数は1万7,321世帯、給付者数は4万1,768人、給付率は99.8%でありました。

2つ目につきましては、把握いたしておりません。

3つ目につきましては、266件でありました。

2点目の1つ目につきましては、申請書による基本給付は21件、追加給付は76件であります。

2つ目につきましては、個別に通知し、申請の呼びかけを行ってまいります。

3つ目につきましては、個別の事情について、実態把握はできませんが、非正規の解雇が数件あるとお聞きいたしております。

3点目の1つ目と2つ目につきましては、今のところ廃業や失業、生活保護申請の増加傾向は現れておりません。

3つ目につきましては、8月28日現在で雇用調整助成金が88社、212件、緊急雇用安定助成金が43社、105件とお聞きいたしております。

4つ目につきましては、高齢者など必要な方にインフルエンザワクチンの接種を呼びかけてまいります。

4点目の1つ目につきましては、障害者理解促進事業において、透明マスク等の購入が助成対象となっております。

2つ目につきましては、市の業務全般がSDGsの取組につながるものと考えており、世界全体で取り組むことが重要だと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

2回目の質問に入らせていただきます。

特別定額給付金についてであります。月曜日の市長の行政報告でも聞かせていただいたんですが、そのときには、たしか4万1,770人とお聞きしたような気がしたんですが、今、4万1,768人ということで、金額につきましても41億7,700万円とお聞きしたんですが、これは今回の4万1,768人が正解でしょうか。ちょっとそこら辺をお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

初日の行政報告については、100万円単位ということで10万円以下については四捨五入ということで報告させていただきましたので、それで今ほどの市長答弁の給付人数に10万円を掛けた数字と、初日の行政報告で申し上げた数字が違うという状況になっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

了解しました。私、この99.8%から全体の数を計算しましたもので、1名ぐらい違うかもしれませんが、そこは数字1名ぐらい違うかもしれませんが、その数で話させていただきます。

糸魚川市では99.8%、4万1,768人ということであります。100%になると私の計算では4万1,854人なんですけども、853人であるかもしれません。とにかく給付されなかった人数は八十三、四人いるということが分かります。

第2回市議会定例会の市長答弁によりますと、給付対象者数は4万1,809人とお聞きしております。その6月時よりも四十四、五人給付対象者が増えておりますが、その詳細はどのようなものか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

まず、給付率の関係なんですけども、給付率の関係については国への報告の関係で、全世帯に対しての、給付済みの世帯数に対しての給付利率ということで、人数ではございませんので、人数に

対しての給付率ということであれば99.9%となっております。その辺はちょっと説明不足で大変申し訳ございません。

それで、対象の人員ということですが、最終的には4万1,812人ということで、6月の市議会定例会時よりも3名増えております。その内訳としては、4名が27日以前に糸魚川市へ転入していたんですけども、28日以後に届出があったということで、結果として糸魚川市の対象者になったので4名増えたというものと、逆に、対象者だったんですけども、一人世帯の方がお亡くなりになって、給付を受けないうちにお亡くなりになって、対象者としては減というふうにカウントするよというルールでございますので、それで差引き3名の増ということで、4万1,812人で3人の増ということになっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

そうしますと44名の方が給付を受けなかったという、そういうことでよろしいですかね。そうしますとその44名の方に、給付を希望しないという方がどんだけおったか。それから、そのほかで連絡がつかなかった人が、その残りになるわけですが、その人たちに対してどのような申請促進対策を取ったか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

給付できなかった44名のうち辞退と、私は辞退しますよという申出があった方については13名でございました。ですから、給付の意思が分からなくて給付できなかった方が31名ということになります。

未申請の方への対応といたしましては、まず、6月22日と7月17日、その時点での未申請世帯の方に、まずそれぞれお手紙なり、まだ申請を受け付けておりますので、お手紙なり出させていただいて、また、当初の送った申請書も紛失してる可能性もありますので、再交付という形で送らせていただいたというのが1点と。あと7月下旬と8月中旬に、8月中旬というと、もう8月18日までが申請期限ということで、その時点で申請されてない世帯のほうへ、7月末については高齢者の世帯、8月についてはそれ以外の世帯ということで、職員から各そのお宅のほうへ訪問させていただいて、会える方についてはお話しし、不在の方についてはお手紙を置いてきたというような対応を取っておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

私の友人なんですけど、一人暮らしをしている人がいるんですけども、昨年末からずっとドライブ

旅行に出かけておりました、最近になってようやく糸魚川に帰ってきました。昭和の時代の国民的映画の主人公みたいに10か月も音信不通、家は鍵をかけたまま、携帯は持っていない。そういう状態で誰も連絡をつけようがなかったわけなんです。本人は、やっと定額給付金の申請期限に間に合ったと、こう言うておりました。こんな人もいる中での99.9%になるわけですが、この結果につきまして、市の特別定額給付金対策室または担当課では、どのように考えておりますでしょうか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

市長が初日の行政報告でも申し上げたとおり、給付を希望された方については、全て給付が行ったんじゃないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

大変ご苦労さまでした。

それでは、9月になりまして、全国で爆破予告メールが送られてきたという報道が相次いでおります。コロナで行動が制限されており、ストレスを抱えた人が様々な行動を取って、ストレスを発散させてるように思えます。糸魚川市でも7月27日に庁舎を爆破するというメールがあり、市内を騒がせました。国や自治体のコロナ対策に不満や不公平感を持つ人を、できるだけなくすることが必要だと思われま。

特別定額給付金につきましては、事情があって期間内に申請できなかった市民が名のり出た場合、市独自に救済措置を取るといような考えはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

先ほど申し上げたとおり、給付の希望がある方については、基本的には全て給付できたというふうには考えておりますけども、もし、先ほど議員申し上げられたような方がいらっしゃいましたら、よくその方の事情をまずお伺いさせていただいて、どうするかについてはその方のそれぞれの事情によって、また対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

市民の不公平感とか不満をなくするために、そういうことがありましたらよろしくお願ひしたいと思ひます。

次ですけども、保坂議員の質問とちょっとダブりますけどもよろしくお願ひします。

特別定額給付金は、4月27日時点で住民基本台帳に記載されている人が対象でありまして、その日以降に生まれた新生児は、給付対象ではありません。

一方、新型コロナは収束傾向と拡大傾向を繰り返しておりまして、終わりが見えておりません。新型コロナで新しい生活様式を求められるのは、4月27日以前に生まれた子供も、それ以降に生まれた子供も変わりありません。

隣の妙高市では、4月28日以降に住民登録された子供たちには、市独自で1人10万円の給付をすると、こういうことを決めました。糸魚川でも、ぜひ検討してほしいとは思ひます。答弁は先ほど聞きましたので、検討していただきたいと言うしかしようがありませんが、お願ひいたします。

これもダブりますけれども、政府は地方創生臨時交付金の使い道として、特別定額給付金の対象とならなかった新生児に対して、自治体が独自に行う給付金の財源とすることを容認しております。これも先ほど保坂議員が言ったとおりであります。子育て世帯に不公平感をもたらせないためにも考えていただきたいと思ひます。先ほどの答弁と一緒にかもしれませんが、ひとつよろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほどの保坂議員にお答えしたとおり、現行制度の拡充を含めて検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

よろしくお願ひいたします。

オンライン申請なんです。これはマイナンバーカードの普及を目的の1つに行われたものと思ひます。高齢者がカードをつくっても、オンライン申請は敷居が高かったであろうと思ひます。暗証番号というハードルがあり、その上にパソコンやカードリーダーが必要だったりして、ストレスがたまった人も多かったのではないかと思ひますが、担当課のほうはどう感じましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

今回のマイナンバーカードを通じたオンライン申請につきましては、申請する側からすると、ご利用された市民のお声を聞くと、やはりスマホの機種によってなかなか申請までにたどり着けなかったり、また、申請ボタンを押しても申請したかどうか分からないために何回か申請したりというようなお話をお聞きしております。そういう意味では、少しまだまだ、今回、定額給付金自体が急

遽決まった制度ということなので、システム自体がこなれていないシステムだったのかなというふうには思っております。

また、私らのほうの給付する側という立場でいいますと、今ほど申し上げましたように何回も申請しても受け付けるシステムなので、そのオンライン申請が本当に初めてなのか、前が間違っとして2回目を送ったものなのかというものを一々確認しなければいけないシステムというもの、そういう点と、もう一点、郵便方式の場合は市のほうから送付させていただきましたので、家族の構成等については、ほとんど確認しなくて、送っていただいた添付書類等をチェックすれば、それで給付のほうへ進めたのでございますけども、オンライン申請の場合については、やはり今回、世帯単位でということでしたので、世帯の方が全員入ってるのかどうかをまずチェックする必要があるということで、そういう意味では先ほど申し上げたように、少しこなれてないシステムだったのかなというふうには感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

これもご苦労さまでした。ちょっと離れるかもしれませんが、コロナ禍での経済対策とマイナンバーカードの普及を目指したものと思うんですが、ポイント還元事業、マイナポイントが始まっております。マイナンバーカードの普及のために国の税金2,478億円、これを使って、カードを持たない人や持っていて使えない高齢者にとって全く恩恵のない制度、これが始まるわけです。国民・市民に不公平感とストレス感を増やす可能性が高いと思うんですが、いかが考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

マイナポイントにつきましては、今、高齢者の皆さんも窓口にお越しただいて、手続とか、あるいは相談にお越しただいているところでございます。私ども窓口におきましては、できるだけ丁寧に分かりやすい説明を心がけているところでありますが、いずれにしましても、高齢者の皆さんにも恩恵が与えられるような丁寧な説明・対応をしてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

できるだけよろしく願いいたします。

（2）に行きたいと思います。

ひとり親世帯臨時特別給付金についてです。これは児童手当、児童扶養手当とひとり親世帯臨時特別給付金、この支給対象者についてなんですけど、ちょっと私よく分からなかったものですから確

認させていただきます。

児童扶養手当は、公的年金を受けていると一部または全額停止される場合がある。また、所得が一定額以上ある場合にも、児童扶養手当は一部または全額支給停止される。

ひとり親世帯臨時特別給付金のうち基本給付は、児童扶養手当受給世帯はもちろん、公的年金受給額が多く、児童扶養手当が全額停止されている世帯にも対象所得水準となれば支給される。また、所得が多く、所得制限により9月分の児童扶養手当を支給されていない世帯でも、コロナの影響で家計が急変して、収入が児童扶養手当受給世帯と同水準に落ち込んだ場合には支給される。

追加給付についてですが、6月分の児童扶養手当受給世帯及び公的年金等の受給により、児童扶養手当が停止される世帯で、コロナの影響で家計が急変、収入が減少した方には追加給付を行う。

こういう理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、議員おっしゃったとおり、制度の概要はおっしゃるとおりであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ひとり親世帯にも申請必要な場合と申請が不要な場合とあるわけなんです、申請が必要な世帯については、私は申請書というのはホームページのそういうところにあるのかなと思ったんですが、厚生労働省にも市のホームページにもございませんでした。そこら辺の、私には分からなかったんですが、そこら辺どうなっているか教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

申請が必要な対象者になる可能性のある世帯については、申請書を既に送付をしております。個々に申請書を送らせていただきましたので、ホームページには申請書は掲載しておりませんでした。万が一のことを考えまして、ホームページにも申請書を、様式を添付させていただいたところでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

申請って書いてありますと、個人的に申請しなきゃいけないのかなと思ったんですが、市のほう

で対象者に、個々に丁寧に対応されているということで理解いたします。

ところで、申請が必要な対象者が、申請書をホームページでは見つけることができなかつたんですが、受給拒否の届出書はホームページでしっかりダウンロードできました。特別定額給付金の申請書に給付金不要の人は、バツ印をつけるような四角がありまして、違和感を覚えたのを思い出しましたが、受給拒否の届出書を提出した方もおられたものでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

受給拒否の方につきましては、現段階で提出した方はいらっしゃいません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

9月1日に総務省が発表した7月の労働力調査によりますと、非正規労働者数は前年同月比で131万人減少しています。コロナが広がりを見せた3月から、前年同月比はずっとマイナスが続いておりますが、5月に一旦、減少傾向が少し収まったんですけども、その後、激増しまして7月は男性が50万人減少、女性が80万人減少、合わせて非正規労働者は131万人減少しています。産業別では、宿泊・飲食業が最大の減少数で22万人となっています。コロナの影響でシングルマザー世帯の生活の悲惨さは、新聞やインターネット情報を見ても想像を絶するものがあります。ひとり親世帯臨時特別給付金については、追加給付が1回ありますが、その後はありません。市としても、今後も実態を把握してもらって、様子を見ながら対策を考えてほしいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ちょうどこの8月、先月が児童扶養手当の現況届の時期でありました。現況届を提出しに市の窓口へ来たお客様に、何か困ったことはないかというようなこととお聞きしております。総じて、今すぐどうのというような問題はなかったんですけども、口々に、やはりこの状況がいつまで続くのか、また、ご自身やお子さんがコロナに感染したときはどうすればいいのかというような不安の声が聞かれたところであります。

新型コロナに限らず不安なときは、いつでもご相談くださいというようなことを伝えておりますし、引き続き相談しやすい環境づくりを意識しながら、実態の把握に努めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうかよろしくお願ひいたします。

（3）の新型コロナ緊急事態宣言や自粛による市内の影響についてであります。①、②に関連してありますが、市内ではコロナ由来の廃業、失業者の増加、そういうものは現れていないということでもあります。ハローワーク糸魚川発行の最近の雇用・失業情勢を見ますと、パートを含む全数、この有効求人数の変化を見ますと昨年7月は930人ありました、求人です。そこから主に下がり続けまして、今年の5月には545人へと59%にまで下がりました。その後、2か月後の7月で668人と増加いたしまして、1年前の有効求人数の72%まで回復しております。持ち直しております。この変化をどう見ますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雇用情勢につきましては、季節性があるため前の月ではなくて、前年の同月比で増減が判断されてるところでありまして、糸魚川管内の有効求人数は、前年同月比11か月連続で減少している状況であります。7月には有効求人数が一時的に上昇しているものの、7月の雇用・失業情勢につきましては、ハローワーク糸魚川にお聞きしましたところ、パートを含む全数について、求人が求職を上回って推移しているものの、求人の動きが弱く、引き続き、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に十分注意する必要があるとのことであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

同じなんですけども有効求職者数、これを見てみたんですが、これも今年の2月の505人を頂に下がり続けて、7月には346人まで減少しています。就職されたのか諦めたのかは分かりませんが、結果、失業者は少なくなり、有効求人倍率は、2月の1.48倍から5月に1.3倍、そこまで下がったんですが、7月には1.98倍まで上昇して回復しております。全体的には雇用情勢は4月、5月からは改善の方向にあるように思えるんですが、そこら辺改善の方向にあると考えていいのか、ちょっとそこら辺の判断を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

先ほどとも同じ考え方になりますが、雇用情勢につきましては、季節性があるため前年同月比で増減が判断されておりますので、糸魚川管内の有効求職者数は、前年同月比8か月連続で減少して

推移してきておる状況であります。このようなことから、今後とも新型コロナウイルス感染症が、雇用と与える影響について十分注意して、見ていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

廃業も失業者の増加も現れていないということでありましたが、ハローワーク糸魚川の最近の雇用・失業情勢の中にパートタイムに限った集計があります。これを見ますと有効求人数が3月から6月までの間、前年同月比50%ほどに3か月とも落ち込んでおります。有効求職者数は、2月、3月、4月と前年同月を上回っています。仕事を求める人が多いということでありまして。

結果、4月、5月、6月の有効求人倍率は、1倍を切っております。厳しい状況だったと思えます。このパート労働者には、コロナで大きな影響を受けた宿泊・飲食業等が含まれているのではないかとと思いますが、いかが考えますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

市長の答弁のとおり、非正規の解雇につきましては、数件ございますので、ここに含まれている可能性はありますが、ハローワークによりますと4月から7月までの事業主都合での解雇ですとか雇い止めの数は64人であり、ただ、昨年同期に比べて11人減少している状況であります。このようなことから、現在のところ、市内での新型コロナウイルス感染症の失業への影響は少ないと考えておりますが、引き続き状況を注視していく必要があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

課長は答えられませんでした。飲食業、宿泊・飲食業がパート労働者のほうに含まれているのが多いんでないかなと考えております。このパート労働者につきましても、7月には有効求人数が増えて、有効求職者が減ったこともありまして、求人倍率は1.34倍まで上がってきておりました。元気応援券やなんかの効果もあるのかなと思えますが、コロナ感染に気をつけながら、パート労働者の雇用動向を注視する必要があると思えます。よろしく願いいたします。

④です。これも保坂議員とダブりますが、よろしく願いします。

インフルエンザとコロナの同時流行対策であります。インフルエンザワクチンにつきましては、副作用・副反応と言うようですけれども、確率は少ないですが重篤な副反応が見られることがあるということでもあります。

しかしながら、2つの感染症は症状がよく似ていて、同時流行があった場合を考えて、インフルエンザ予防接種の助成を拡大する市町村が増えてきました。糸魚川市でも、インフルエンザ予防接種を希望する人には全員助成して、市民とともに病院、医療機関を守る。また、救急車などを運転

する消防署の職員も守る必要があると思いますが、この点いかがでしょうか。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

感染症予防と同時流行による医療現場の混乱を回避するため、ご提言のインフルエンザ予防接種は有効であるというふうに認識しております。

しかし、国で確保するワクチンの量というのは限りがあって、国民の約50%程度、それから全員に接種するワクチンはないわけであります。このため、高齢者でありますとか重症化する基礎疾患のある方など、まずは接種を必要とする方が優先的に確実に接種する。このことが最も重要であるというふうに認識しております。したがって、補助対象を拡大した場合、必要とする方の接種の妨げになるという心配がありますことから、今のところ補助対象の拡大というのは考えておりません。

しかし、必要とされる方への優先接種、優先的接種というのは呼びかけていきたいというふうに考えておりますことから、既存対象者への補助額、こういうものの拡充については、今後の検討課題とさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

ワクチンの量がないとなると、どうしようもないことです。こういう中で新潟県でも粟島浦村、出雲崎町、五泉市、こういうところでは希望する人には全員補助するというような、そういうのが出てますんで、状況を見て、もし可能だったら検討していただきたいと思います。

それから（4）ですが、新しい生活様式の具体化についてであります。

視覚障害者についてですが、視覚障害者は、つえとか盲導犬、人の肩を借りたり、手をつないでもらったりして外出することが多いと思います。人との間隔を2メートル、最低1メートルを守るのは難しいと思います。エレベーター等では、点字ボタンを触る必要もあって、他人の目があって、なかなか外出しづらくなると思います。健常者と視覚障害者が気軽に声を掛け合って、お互いを守る、そういう気風をつくる以外に方法はないんじゃないかと思います。都会では、そういった環境をつくるというのは非常に難しいと思いますけども、糸魚川では頑張れば、そういう気風をつくることは可能ではないかと思いますが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

コロナ感染症の中、視覚障害者からは買物等におきまして、店員などに商品を取ってくださいなど頼みにくくなったという声も伺っております。コロナ感染への心配から、障害者への合理的な配慮が行いにくくなっているとも感じております。ソーシャルディスタンスを守り、感染を予防するこ

とは、もちろん大切であります、それによりまして健常者と障害者の心の距離までも遠く離れることは避けなければならないと考えております。新しい生活様式の中で、心の距離を縮めるためにも市民の方々に対し、障害者への声かけなど、合理的配慮に基づいた支援を周知してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

どうぞよろしくお願いいたします。糸魚川が、そういう人と人とのつながりを優しい関係でやっていけるまちになれば、また糸魚川のイメージも上がると思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、聴覚障害者についてですが、重度の人に対しては手話通訳の人に口元の見える合成樹脂製の透明なマスクを使って、口の動きも判断材料にしながらかommunicationを取るしかないかもしれませんが、距離40センチ以上離れた会話が理解できない難聴者は、障害者6級と認定されて、補聴器購入に補助が出ることになっております。新しい生活様式では、基本2メートル、最低1メートルの距離を保つこととなっております。新しい生活様式によって、多くの高齢者が声による意思疎通ができなくなるおそれがあると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

1メートル以上のソーシャルディスタンスを保つために身体障害者手帳をお持ちではなく、補聴器を購入されていない軽度、また中度難聴の高齢者にとりましては、意思疎通が難しくなる場合もあると思います。そのためにマスクをつけていても大きめの声でゆっくり話す。また、身ぶりや手ぶりを交えて話すなど、そのほか写真であるとか絵を用いて会話を補うといった配慮が必要になるかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

手話という手もあるんですけども、高齢者には手話を覚えるというのは非常に大変だと思います。補聴器につきましても、全国で必要とする人には補聴器の助成をするようなところが出てきておりますので、今までの議会でも何人かの議員からお話ありましたが、ぜひともそこら辺も検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

身体障害者手帳の対象とならない、例えば高齢者の軽度・中度難聴者にとりましては、人とのコミュニケーションが取りにくくなったことにより、例えば認知症への影響といったことも出ております。そういった方々への補聴器の助成等につきましては、今後、他自治体、また国の補助制度等も鑑みながら検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

子供さんへの補聴器補助というのは、結構進んでるようなんですが、高齢者に対してもぜひとも検討していただきたいと思います。

②に移ります。

新型コロナウイルス感染症は、コウモリから人への感染から始まったとも言われています。動物由来感染症、ズーノーシスと呼ばれております。ズーノーシスは、自然環境と密接な関係があり、環境破壊が続けば、ますます新たなズーノーシスを呼び込むことになると言われております。エボラ出血熱、エイズ、マーズ等、皆、昔はなかった感染症です。

市民部長に伺います。このような記事や報告がインターネットや国連からも出されておりますが、これについてどう感じておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、野生動物が感染症の発生源といった報道のお話されましたけども、市内におきましても野生動物が、人が住んでいる地域に出没するという状況があり、有害鳥獣捕獲がどんどん、どんどん増えているという状況であります。これはやはり地球温暖化が、気候変動に影響を与えているものだと思いますし、これには糸魚川市もそうですし、日本・世界が一丸となって持続可能な開発目標に対して取組を進めていくべきだということだと思いますし、それを意識した取組をしていかなければならないというように感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

気候変動ですが、シベリアで6月に平均気温が20度だそうですが、平均気温よりも18度も高い気温38度を記録し、永久凍土が溶け出す心配がされております。永久凍土が溶け出すと、地面が熱を蓄えるようになり、温暖化はさらに進み、環境破壊が加速され、新たな感染症の発生が誘発されることが、可能性が高まることとなります。日本でも、年に何回も豪雨による大災害が起きていまして、ここ10年間を振り返ってみても急激に大規模災害が増えてるような感じます。世界の温暖化は、予想以上のスピードで進んでるようであり、同時に、新しい感染症が次々と発生し

ているように思いますが、いかがに思いますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに議員が言われるように世界温暖化、昨日も県内でも三条市でしょうか40.7と非常に高温で今台風も接近しておりますけども、大変な環境の破壊というのは起こってるのかなというふうに思います。そういった意味で、先月の地域医療フォーラムでも富山大学の先生がおっしゃってました。新たな感染症というのは、やっぱり今ウイルスに対するワクチンを作ったとしても、またそれに耐え得る耐病性といえますか、耐え得るウイルスが出てくる。そういった中で、我々自身の変化をしていかなければいけないというようなことも言われてました。

そういった意味で今、国が示しているような新しい生活様式の実践というのは、そういった意味を含めて深い意味があるのかなというふうに思いますので、これを機会にやっぱり我々の変化というものも新しい生活様式に基づいた我々の行動の変化というのもしていかなないと、なかなか持続可能性というのは難しいのかなと思います。

そういった意味で、またSDGsの話に戻りますが、持続可能な開発目標というのは、国連で決めたものであります。やっぱり一人一人が実践していくという姿勢が大事だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

日本では、夏の平均気温は、この40年間に1度上昇したと言われております。気温が上昇すると空気の飽和水蒸気量はその分だけ大きくなりまして、また海水温についてですが、海水温が高いほど水蒸気になりやすい、そう思いますが、日本近海の海水温は、100年間に1.1度上がってるそうです。これは世界全体の海水温上昇が、100年間に0.55度であると言われてているのに対して2倍以上の上昇量であります。豪雨の材料が、空気中にたっぷりと蓄えられる条件が整ってきたと言えます。

日本は、周りを海に囲まれていて、海に守られているように私は思ってましたが、その海が世界の2倍以上の速度で温暖化しているとなると、世界の気候変動の先進国にもなりかねません。偏西風の蛇行の問題も絡んで、温暖化は5年先、10年先さえどうなるか予想できないような状態に思えます。気候変動や自然破壊由来の新型感染症を発生させないためにも、生活環境を守る活動は、自治体も国も、世界中の国々とともに喫緊の課題として取り組むべき人類に与えられた課題だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに議員の今言われたとおりだと思います。やはり一人一人の行動が、非常に大事だというように思います。そういった意味で、今の状況をしっかり我々が把握して、何ができるのか、そういったことを認識して、行動に移していく、そういったところが大事だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

SDGsにつきましては、持続可能な開発目標と略しているようであります。今まで持続不可能な無秩序な開発を続けた結果が地球温暖化であり、ズーノーシス、動物由来感染症の発生の増加につながったものと思います。これからは、持続可能な開発目標の文字のうち、開発よりも持続可能に重点を置いた17の目標に焦点を当てた取組を進めていきたいと思うわけであります。

市長が先ほど言われたとおり、糸魚川は自然に恵まれたところだと私も思います。でも今年は、私は異常を感じております。梅雨明けが遅かったからかもしれません。私の住んでいる地域では、アブラゼミの声に悩まされることがありませんでした。耳が悪くなったせいかもしれませんが、この夏、ヒグラシの鳴き声は全く私の地域では聞こえません。ミンミンゼミは、たまに私が通る範囲では鬼伏で聞くことがありますけど、ほかではほとんど聞いたことがありません。これは一体どういうことを意味するのか、これを私は今気にかけております。この温暖化には、みんなでもって注意していかないとと思います。よろしくお願いします。

これで、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

佐藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦勞さまでした。

〈午後3時50分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員